

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 29 年度 第 6 回理事会

開催日時 平成 30 年 3 月 27 日（火）
15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 710 号室
（東京都文京区本郷 7-3-1）

平成 29 年度第 6 回理事会議事次第

1. 開 会

議事内容

2. 審 議 事 項

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 第 1 号議案 | 新入会員承認の件 |
| 第 2 号議案 | 委員会委員承認の件 |
| 第 3 号議案 | 平成 30 年度事業計画書および収支予算書承認の件 |
| 第 4 号議案 | 事務局員(常勤)就業規則制定の件 |
| 第 5 号議案 | 事務局員(非常勤)就業規則制定の件 |
| 第 6 号議案 | ジャーナル事業事務局員(常勤)就業規則制定の件 |
| 第 7 号議案 | ジャーナル事業事務局員(非常勤)就業規則制定の件 |
| 第 8 号議案 | 退職金規則制定の件 |
| 第 9 号議案 | 慰労金規則制定の件 |
| 第 10 号議案 | 賃金規則制定の件 |
| 第 11 号議案 | フレックスタイム労使協定書制定の件 |
| 第 12 号議案 | 時給規則改正の件 |
| 第 13 号議案 | 「学生旅費補助特定費用準備資金」取り扱い規則設置の件 |
| 第 14 号議案 | 2018 年度連合フェロー認定について |
| 第 15 号議案 | 日本地球惑星科学連合学術賞(三宅賞)受賞者認定について |
| 第 16 号議案 | その他 |

3. 報 告 事 項

1. 川幡穂高 代表理事職務報告
2. 田近英一 理事(広報担当)職務報告
3. 中村正人 理事(顕彰担当)職務報告
4. 古村孝志 理事(総務担当)職務報告
5. 北和之 理事(財務担当)職務報告
6. 倉本圭 理事(ジャーナル担当)職務報告
7. 浜野洋三 理事(大会運営担当)職務報告
8. グローバル戦略委員会活動報告
9. 教育検討委員会活動報告 瀧上豊 理事
10. 情報システム委員会活動報告
11. その他

4. 閉 会

(資 料)
 前回議事録

平成 29 年度第 5 回理事会議事録・	P.1- 5
--------------------------------	--------

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件	P.6-24
第 2 号議案 委員会委員承認の件	P.25-27
第 3 号議案 平成 30 年度事業計画書および収支予算書承認の件	別添
第 4 号議案 事務局員(常勤)就業規則制定の件	別冊子に記載
第 5 号議案 事務局員(非常勤)就業規則制定の件	別冊子に記載
第 6 号議案 ジャーナル事業事務局員(常勤)就業規則制定の件	別冊子に記載
第 7 号議案 ジャーナル事業事務局員(非常勤)就業規則制定の件	別冊子に記載
第 8 号議案 退職金規則制定の件	別冊子に記載
第 9 号議案 慰労金規則制定の件	別冊子に記載
第 10 号議案 賃金規則制定の件	別冊子に記載
第 11 号議案 フレックスタイム労使協定書制定の件	別冊子に記載
第 12 号議案 時給規則改正の件	別冊子に記載
参考: 大会特別手当規則	別冊子に記載
第 13 号議案 「学生旅費補助特定費用準備資金」取り扱い規則設置の件	別添
第 14 号議案 2018 年度連合フェロー認定について	P.28-29
第 15 号議案 日本地球惑星科学連合学術賞(三宅賞)受賞者認定について	P.30-32
第 16 号議案 その他	

報告事項

1. 川幡代表理事職務報告	別添
2. 田近理事(広報担当)職務報告	P.33-34
3. 中村正人理事(顕彰担当)職務報告	P.35-36
4. 古村理事(総務担当)職務報告	P.37-39
5. 北理事(財務担当)職務報告	別添
6. 倉本理事(ジャーナル担当)職務報告	P.40-55
7. 浜野理事(大会運営担当)職務報告	P.56-62
8. グローバル戦略委員会活動報告	P.63-68
9. 教育検討委員会活動報告	P.69
10. 情報システム委員会活動報告	
11. その他	

その他の資料

規則・	別添
---------------	----

1. 開催日時 平成 30 年 1 月 23 日（火）

15 時 00 分から 18 時 15 分

2. 開催場所 東京大学理学部 3 号館 320 号室

（東京都文京区本郷 7-3-1）

3. 出席者 理事数 19 名

出席理事 13 名 （定足数 10 名 会議成立）

出席監事 2 名

オブザーバー 12 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高

理事 田近 英一

理事 中村 正人

理事 古村 孝志

理事 井出 哲

理事 小口 高

理事 小口 千明

理事 奥村 晃史

理事 北 和之（ZOOM 出席）

理事 倉本 圭（ZOOM 出席）

理事 津田 敏隆（ZOOM 出席）

理事 中村 昭子

理事 浜野 洋三

監事 鈴木 善和

監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションボードプレジデント 高橋 幸弘

大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬

大気水圏科学セクションバイスプレジデント 杉田 倫明（ZOOM 出席）

大気水圏科学セクションバイスプレジデント 佐藤 薫

大気水圏科学セクション幹事 川合 義美

固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治

学協会長会議幹事会（議長・日本第四紀学会） 齋藤 文紀
学協会長会議幹事会（日本地球化学会） 高橋 嘉夫
学協会長会議幹事会（水文・水資源学会） 樋口 篤志
学協会長会議幹事会（日本古生物学会） 真鍋 真
学協会長会議幹事会（地球電磁気・地球惑星圏学会） 渡部 重十
情報システム委員 村山 泰啓

15 時 00 分、理事の定数に足る出席を確認後、会長川幡穂高は理事会が成立することを宣言し、第 5 回理事会を開始した。インターネット電話 ZOOM を利用し、遠隔地から参加する津田敏隆理事、北和之理事、倉本圭理事、杉田倫明バイスプレジデントおよび渡部重十学協会長会議幹事会委員が審議に参加できることを確認した。

【前回議事録確認】

第 4 回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 賛助会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 3 号議案 委員会委員承認の件

大会運営委員会、環境災害対応委員会、教育国際対応小委員会、学生優秀発表賞小委員会の新規委員を承認した。

第 4 号議案 国際金星会議 2018 第 74 回藤原セミナー「あかつき」が拓く金星の科学協賛の件

国際金星会議 2018 第 74 回藤原セミナーへの協賛について LOC の林委員より詳細の説明があった。検討のうえ、協賛を承認した。

第 5 号議案 「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」に関する 2018 年総会協賛の件

「成層圏・対流圏の諸気候と気候影響研究」に関する 2018 年総会への協賛について検討のうえ、協賛を承認した。

なお第 4 号第 5 号議案ともに、予算についてはセクション間で調節しセクション全体の予算を現在の予算案程度に抑えた案を作成し、財務委員会へ提出することとなった。将来的なセクションの活動費については、中長期的に議論を継続して行くことが望ましいとの意見があった。

第 6 号議案 慶弔規則の改訂について

慶弔規則の改訂について審議した。改訂を承認した。

第 7 号議案 その他（男女共同参画学協会連絡会の分担金の見直しについて）

男女共同参画学協会より男女共同参画学協会連絡会分担金の見直しに関する打診があった。審議の結果、B 案（分担金一律 1.5 倍）、2 案（17 期から分担金を改正する）を提案することを承認した。

8. 報告事項

（1）川幡穂高代表理事職務報告

前回理事会以降の活動の概要について報告があった。

（2）田近英一理事（広報普及担当）職務報告

広報普及委員会の活動報告があった。東京大学理学部の活動とタイアップして「高校生のための冬休み講座」を開催した。盛況であり参加者の反応も好評であった旨報告があった。

（3）中村正人理事（顕彰担当）職務報告

顕彰関連活動について報告があった。

三宅賞候補者の募集について説明があった。

フェロー候補者の応募状況について説明があった。

規則に基づきフェロー審査委員会、三宅賞審査委員会の各委員長の選任について中村理事から提案があり、これを承認した。

大会時の学生旅費助成制度候補者を募集中である旨報告があった。

今年度は西田賞の募集・審査のない年となったが、第 2 回（2016 年度に募集審査、2017 年大会で表彰）受賞者に 2018 年大会時にスペシャルセミナーを依頼する。

（4）古村孝志理事（総務担当）職務報告

前回理事会以降に連合が承認した協賛・後援について報告があった。

選挙の進行状況について報告があった。現在理事候補者選挙の期間中であり、1 月 31 日より 2 月 15 日まで投票期間となる。

2016 年度に発出した、東北大学災害科学国際研究所の共同利用・共同拠点化に向けたサポートレターについて、同研究所今村文彦所長より審査結果についての報告があった旨報告があった。

前回（第 4 回）理事会第 3 号議案にて、リソスフェア・マントルのダイナミクスに関する第 2 回アジア・太平洋ワークショップ共催申請について、固体地球惑星科学セクション及びグローバル戦略委員会から、連合が主体的に共催に貢献する内容を記した改定案が提出され、報告があり、了承した。

（5）北和之理事報告（財務担当）職務報告

財務委員会の活動について報告があった。12 月 26 日に開催した財務委員会に関する報告があった。

委員の任期満了に伴い、セクションに新委員の推薦を依頼することを予定している。
平成 30 年度予算収支書案について報告があり、引き続き検討することとした。
また、中長期の財政状況の検討も含め、情報共有をして、意見交換を行った。

(6) 倉本圭理事（ジャーナル担当）職務報告

ジャーナルの出版状況について報告があった。順調に出版・編集を行っている。WoS 採録誌からの被引用数を試算すると 2,545 となるので、最初の IF はこれに近い数字が期待できる。EPS や、JpGU ロゴを掲載しているジャーナルも含めて引き続き今後も「日本の地球惑星科学コミュニティからの国際情報発信」をキーワードとしてプロモーションしてゆく。

(7) 浜野洋三理事（大会運営担当）職務報告

大会の準備状況について報告があった。現在は投稿募集期間中である。セッション一覧、日程表が示された。

展示ブースは今回 98 ブースに大幅増加しているので、周知・勧誘の協力をしてほしい旨呼びかけがあった。

(8) グローバル戦略委員会活動報告

グローバル戦略委員会の活動報告があった。AGU Fall Meeting 2017 への出展報告があった。連合のブースは好評であった。2019 年には日本の関連機関との合同出展が検討されており、その先駆けとして、2018 年の Fall Meeting では各関連機関が連合ブースの周りに予約している。また期間中のイベント、参加したミーティングについて説明があった。

(9) 教育検討委員会活動報告

教育検討委員会の活動について報告があった。

第 10 回日本地球学オリンピック予選の開催状況の報告、また本戦の開催予定、並びに国際大会の開催予定について報告があった。

教育国際対応小委員会の活動について報告があった。10 月 13 日～14 日に静岡大学等にて、アースサイエンスウィーク・ジャパン実行委員会が主催する Earth Science Week Japan に協力する。現在企画段階である。

(10) 情報システム委員会活動報告

情報システム委員会の活動について報告があった。情報システム委員会規則改定の検討状況について報告があった。これまでの各システムの開発運用に加え研究情報やデータの利用、流通およびオープンサイエンス等についての審議を任務とすること、それに伴って名称を改称すること（現状案は「情報委員会」）、また任期を他の委員会にあわせ 2 年とすることを検討している。

AGU の ESSI セクションへ参加すること等、研究データ関連の話題について情報共有を行った。

(11) そのほか

中長期的な観点より、日本地球惑星科学連合の財政及び地球惑星科学に関する情報活動について情報共有のために議論を行った。

毎日新聞の web ニュースに「日本地球惑星科学連合からの要望書」に言及のある記事が掲載されたが、連合から要望書を提出した事実はないので、引き続き事実関係を確認することとした。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(18 時 15 分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 30 年 1 月 23 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 5 回理事会

出席理事 川幡 穂高 印

出席理事 田近 英一 印

出席理事 中村 正人 印

出席理事 古村 孝志 印

出席理事 井出 哲 印

出席理事 小口 高 印

出席理事 小口 千明 印

出席理事 奥村 晃史 印

出席理事 北 和之 印

出席理事 倉本 圭 印

出席理事 津田 敏隆 印

出席理事 中村 昭子 印

出席理事 浜野 洋三 印

平成29年度会員数推移

正会員						准会員						大会会員						AGU会員			
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	
3月						8115						663				703				1238	
4月	126	49			1	8289	65	49				677	70			773	16			1254	
5月	226	43	2		7	8549	310	43				944	400			1173	42			1296	
6月	5	3		810	4	7743	1	3			6	936	0			1173	2			1298	
7月	4		6			7741	1		2			935	0			1173	4			1302	
8月	3		4		3	7737	0					935			1164	9	15		1	1316	
9月	2					7739	0					935	10			2	11		3	1324	
10月	16	1	2		3	7751	2	1	1		3	932	18		2	33	22		2	1344	
11月	2		4			7749	2				63	871	0			33	12			1356	
12月	3		4		1	7747	0					871	0			33	50			1406	
1月	137	4	1			7887	37	4			1	903	86			119	26		1	1431	
2月末現在	604	32	1		7	8515	103	32			13	961	389		2	506	135	1		1565	
3月																					
	1128	132	24	810	26	8515	521	132	3	0	88	961	973	0	1170	506	335	1	7	1565	

正会員
2018/2/28 8515 名

准会員
961 名

大会会員
506 名

AGU会員
1565 名

変更
准会員から正会員へ

	団体会員		賛助会員	
	入会	退会	入会	退会
3月			50	
4月			50	
5月			50	
6月			50	
7月			50	
8月			50	
9月			50	
10月			50	
11月			50	
12月			50	
1月			50	
2月末現在			50	
3月				
	0	0	50	0

全会員

3月		10,719 名
4月		10,993 名
5月		11,962 名
6月		11,150 名
7月		11,151 名
8月		9,997 名
9月		10,015 名
10月		10,060 名
11月		10,009 名
12月		10,057 名
1月		10,340 名
2月末現在		11,547 名
3月		名

平成 29 年度 1 月～2 月 入会会員

個人情報_の為非公開とする

グローバル戦略委員会名簿

任期: 2018年5月末まで

2018年3月16日現在

No.	役職	選出母体	氏名	所属
1	委員長	理事	木村 学	東京海洋大学
2	副委員長	理事(副担当)	ウォリス サイモン	東京大学
3		理事(副担当)	日比谷 紀之	東京大学
4		宇宙惑星科学セクションプレジデント	高橋 幸弘	北海道大学
5		大気水圏科学セクションプレジデント	蒲生 俊敬	東京大学大気海洋研究所
6		地球人間圏科学セクションプレジデント	春山 成子	三重大学
7		固体地球科学セクションプレジデント	大谷 栄治	東北大学大学院理学研究科
8		地球生命科学セクションプレジデント	遠藤 一佳	東京大学
9			関 華奈子	名古屋大学
10			末広 潔	国立研究開発法人海洋研究開発機構
11			藤本 正樹	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
12			村山 泰啓	国立研究開発法人情報通信研究機構
13			橘 省吾	北海道大学
14			中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター
15			田島 文子	University of California
16			三宅 弘恵	東京大学地震研究所
17			西 弘嗣	東北大学
18			木下 正高	東京大学地震研究所
19			齋藤 文紀	島根大学エスチュアリー研究センター
20			中川 貴司	海洋研究開発機構数理科学・先端技術研究分野
21			安成 哲平	北海道大学大学院工学研究院
新規		(アジア太平洋協力作業部会)	くぼた ひさゆき 久保田 尚之	北海道大学理学研究院
新規		(アジア太平洋協力作業部会)	つがわ たくや 津川 卓也	国立研究開発法人情報通信研究機構
新規		(アジア太平洋協力作業部会)	まつもと じゅん 松本 淳	首都大学東京

PEPS編集委員 (2018/3/27) 71名: 日本人編集委員 40名、外国人編集委員 31名

General Chief Editor	Affiliation	Science Society
井龍 康文	東北大学大学院理学研究科地学専攻	地球生命科学

Section Chief Editors	Affiliation	Science Society
川幡 穂高	東京大学大気海洋研究所	日本地球化学会
吉岡 祥一	神戸大学 都市安全研究センター	日本地震学会
佐藤 正樹	東京大学大気海洋研究所	大気水圏科学
多田 隆治	東京大学大学院理学系研究科	大気水圏科学
松本 淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科	地球人間圏科学
倉本 圭	北海道大学大学院理学院宇宙物理学専攻	宇宙惑星科学

Editors Name	Affiliation	Science Society
Lin-Ni Hau	Institute of Space Science, Department of Physics, National Central University, Taiwan	Space and Planetary Sciences
Noriko Kita	Department of Geoscience, University of Wisconsin-Madison, USA	Space and Planetary Sciences
Patrick Michel	Observatoire de la Cote D'Azur, France	Space and Planetary Sciences
大竹 真紀子	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部	日本惑星科学会
長妻 努	情報通信研究機構	地球電磁気・地球惑星圏学会
山本 衛	京都大学 生存圏研究所	地球電磁気・地球惑星圏学会
Chung-Hsiung Sui	Department of Atmospheric Sciences, National Taiwan University	Atmospheric and Hydrospheric Sciences
John P. Burrows	Institute of Environmental Physics and Remote Sensing IUP/IFE, University of Bremen, Germany	Atmospheric and Hydrospheric Sciences
Kevin Hamilton	Department of Meteorology and International Pacific Research Center, University of Hawaii, USA	Atmospheric and Hydrospheric Sciences
Mark Green	Center for the Environment, Plymouth State University, USA	Atmospheric and Hydrospheric Sciences
池原 研	産業技術総合研究所地質情報研究部門	日本第四紀学会
井上 源喜	大妻女子大学社会情報学部	日本温泉科学会
大手 信人	京都大学大学院情報科学研究科社会情報学専攻	水文・水資源学会
金谷 有剛	海洋研究開発機構地球環境変動領域	大気化学研究会
兒玉 裕二	国立極地研究所	日本雪氷学会
竹内 真司	日本大学文理学部地球科学科	
早坂 忠裕	東北大学大気海洋変動観測研究センター	大気水圏科学
* 岡 顕	東京大学大気海洋研究所	日本海洋学会
三浦 裕亮	東京大学大学院理学系研究科	大気水圏科学
芳村 圭	東京大学生産技術研究所	日本水文水資源学会
Eduardo de Mulder	Earth Science Matters Foundation	Human Geosciences
Junko Habu	Anthropology Department, University of California, Berkeley, USA	Cross-section
* Till Hanebuth	Coastal and Marine Systems Science, Coastal Carolina University, USA	Cross-section
Mike Meadows	Department of Environmental & Geographical Science, South Lane, University of Cape Town, South Africa	Human Geosciences
Nigel Tapper	School of Geography and Environmental Sciences, Monash University, Australia	Human Geosciences
R.B.Singh	Department of Geography, University of Delhi, India	Human Geosciences
Yuei-An Liou	Center for Space and Remote Sensing Research, National Central University, Taiwan	Human Geosciences
菊地 俊夫	首都大学東京都市環境科学研究科	東京地学協会
齋藤 文紀	鳥根大学 研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター	
千木良 雅弘	京都大学防災研究所	地球人間圏科学
早川 裕之	東京大学 空間情報科学研究センター	
村山 祐司	筑波大学大学院生命環境科学研究科	地理情報システム学会
Bjorn Mysen	Geophysical Laboratory, Carnegie Institute of Washington, USA	Solid Earth Sciences
Chen Ji	Department of Earth Science, University of California, Santa Barbara, USA	Solid Earth Sciences
Colin J.N. Wilson	School of Geography, Environment and Earth Sciences, Victoria University, Australia	Solid Earth Sciences
Craig R. Bina	Dept. of Earth and Planetary Sciences, Weinberg College of Arts and Sciences, Northwestern University, USA	Solid Earth Sciences
Fenglinlin Niu	Department of Earth Science, Rice University	Solid Earth Sciences
Frances Cooper	School of Earth Sciences, University of Bristol, United Kingdom	Solid Earth Sciences
J. Casey Moore	University of California, Santa Cruz, USA	Solid Earth Sciences
James B. Gill	Environmental Studies Department, University of California Santa Cruz, USA	Solid Earth Sciences
Mike Coffin	University of Tasmania, Australia	
Paul Tackley	Department of Earth Sciences, ETH Zurich Institute fuer Geophysik, Switzerland	Solid Earth Sciences
Peter Van Keken	Department of Terrestrial Magnetism Carnegie Institution of Washington, USA	Solid Earth Sciences
Shun-ichiro Karato	Department of Geology & Geophysics, Yale University, USA	Solid Earth Sciences
Toshiro Tanimoto	Department of Earth Science, University of California, Santa Barbara, USA	Solid Earth Sciences
大谷 栄治	東北大学大学院理学研究科地学専攻	日本鉱物科学会
加藤 照之	東京大学地震研究所	日本測地学会
川勝 均	東京大学地震研究所	日本地震学会
サイモン・ウォリス	名古屋大学大学院環境学研究科	日本地質学会
渋谷 和雄	国立極地研究所	日本測地学会
清水 久芳	東京大学地震研究所	地球電磁気・地球惑星圏学会
中田 節也	東京大学地震研究所	日本火山学会
平島 崇男	京都大学大学院理学研究科	日本鉱物科学会
三ヶ田 均	京都大学	物理探査学会
宮内 崇裕	千葉大学大学院理学研究科	日本活断層学会
八木 勇治	筑波大学生命環境系	日本地震学会
渡辺 幸	秋田大学 国際資源学部	資源地質学会
Heiko Palike	Centre for Marine Environmental Sciences, Bremen University, Germany	Cross-section
Joseph Kirschvink	California Technology University, USA	Biogeosciences
Mark Lever	Department of Environmental Systems Science, Institute of Biogeochemistry and Pollutant Dynamics, ETH Zürich	
遠藤 一佳	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	日本古生物学会
掛川 武	東北大学大学院理学研究科地学専攻	
小林 憲正	横浜国立大学大学院工学研究院	日本宇宙生物科学会
高野 淑謙	海洋研究開発機構	

ジャーナル関係新規委員候補：

○編集委員候補

担当分野：大気水圏分野

おか あきら
岡 顕（准教授）東京大学大気海洋研究所

＊海洋学会推薦の日比谷紀之教授の退任に伴う、新規編集委員

○新規編集委員(報告)

担当分野：地球人間圏科学

Till Hanebuth（Associate Professor）

Coastal and Marine Systems Science, Coastal Carolina University, USA

開催日時：2018 年 2 月 19 日（月）15:00～16:00

開催場所：学会センタービル 4F 会議室（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル）

出席委員：フェロー審査委員 3 名

出席オブザーバー：担当理事 中村正人 中村昭子（Zoom 参加） 顕彰委員 成瀬元

5. 議事

開始予定時刻となったため、中村正人理事が議長席に着き、仮議長として会議の開始を宣言した。

議事 1. 自己紹介

委員の自己紹介を行った。

議事 2. 委員長の選定

フェロー審査委員会規則第 3 条 2 項に基づき、会長より推薦のあった委員を委員長として選定した。
議長を委員長へ交代した。

議事 3. 規則及び経緯の説明

担当理事より、フェロー関連規則の説明と過去のフェロー審査の経緯について説明があった。

議事 4. フェローの選考

推薦のあったフェロー候補者の中からフェローを選考した。現段階で 9 名をフェローとして理事会へ推薦することを決定した。他 3 名の適格性について、欠席した担当委員に再度確認することとし、その結果を踏まえ、最終的な推薦リストを作成し、次回 3 月 27 日開催の理事会に提出する。

議事 5. その他

委員長から、フェローの本審査委員会の質問や要望が問われた。

委員より事務局へ、審査委員会は委員が全員出席できる日程で開催してほしい旨要望があった。

全ての議論を終え、議長は閉会を宣言した。

以上

開催日時：2018 年 2 月 27 日（火）から 3 月 6 日（水）

開催場所：（メール会議）

参加委員：フェロー審査委員 5 名

オブザーバー：担当理事 中村正人 中村昭子 津田敏隆 顕彰委員 成瀬元

5. 議事

委員長が議長として、2 月 27 日（火）にメールを送信し、審議を開始した。なお全てのメール送信には委員およびオブザーバーをメンバーとするメーリングリストを用いた。

議事 フェローの選考について

前回第 1 回の議事に基づき、保留となっていた 3 名の候補者について、担当委員に再度意見を求めたところ意見が提出されたため、これを基に全委員により審議をした。

回答期限 3 月 6 日までに委員より反対意見はなく、全会一致でこの 3 名の候補者をフェローとして推薦することを承認した。

既に承認していた 9 名と合わせ 12 名を推薦することとし、3 月 27 日の理事会に提出する。

全ての議論を終え、議長は 3 月 7 日（水）に閉会を宣言するメールをメーリングリストに送信した。
以上

第1回公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会

議事録

1. 開催日時 平成 29 年 11 月 21 日（火）

15 時 00 分から 16 時 30 分

2. 開催場所 学会センタービル地下会議室

（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル地下）

3.出席者

審査委員（審査委員会規則第 6 条に基づき、受賞者決定時点まで非公開）

オブザーバー（担当理事）

中村 正人 宇宙航空研究開発機構

津田 敏隆 情報・システム研究機構

中村 昭子 神戸大学（インターネット会議システム「Zoom」にて出席）

4.議長 中村正人 から 委員長

5.議事

定刻が来たため仮議長中村正人理事が開会を宣した。

（1）自己紹介

出席者の自己紹介を行った。

（2）委員長の選定

委員長を互選にて選定した。満場一致で承認された。本人の承諾により委員長に選定された。以降、仮議長に代わって議長に就任した。

（3）選定手順の確認

理事会に承認された規則並びに審査委員会規則を確認し、選定手順の確認を行った。

審査委員規則に誤字があることが確認され、訂正するよう要請があった。

（4）募集要項の確認

三宅賞事務局より募集要項の案が提示され、確認した。

候補者受付期間を 1 月 1 日から 2 月 15 日にすること、推薦理由書を A4 で 4 ページとすること、賞状の他にメダルも贈呈することを承認した。

また他にも語句や表現を数か所訂正したため、改訂案を会議後あらためてメールにて回覧し、確認したうえで次回理事会に提出し承認を求めることとした。

（5）日程の確定

候補者募集と審査の日程について確認した。上記(4)での議論の通り、候補者受付期間開始を 1 月 1 日、受付期間終了を 2 月 15 日とした。

次回委員会を 2 月 21 日もしくは 22 日、第 3 回委員会を 3 月 14 日もしくは 15 日とし、今回欠席した委員の都合を問い合わせたうえで確定することとした。

（6）その他

他、審査方法について検討した。

本賞の対象となる候補者の範囲について検討の提案があった。検討の結果、今回は定義を決めず、募集要項等にも記載しないことで一致した。

以下については今回審議せず、引き続き検討することとした。

- ・受賞者の号数について、地球化学研究協会三宅賞から連番とするか、1 からとするか
- ・審査方法として審査員が候補者の解説役を担うのか
- ・メダルのデザインについて

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

第2回公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会 議事録

1. 開催日時 平成30年2月21日（水）
13時30分から15時30分

2. 開催場所 学会センタービル4F会議室
（〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル地下）

3.出席者

審査委員7名（審査委員会規則第6条に基づき、受賞者決定時点まで非公開）

オブザーバー（担当理事）

中村 正人	宇宙航空研究開発機構
中村 昭子	神戸大学

4.議長 委員長

5.議事

定刻が来たため議長が開会を宣した。

（1）候補者確認

推薦書類に基づき被推薦者の受賞資格について検討した。全員に資格があるとの結論に達し、被推薦者全員を審査対象とすると確認した。

（2）審査方法の検討

審査方法を検討した。委員が候補者のうち2名を連記して投票し、上位2名を選出した後、その2名で決選投票を行って受賞者を決定することとした。

委員長は投票に参加せず、決選投票が同数となった場合にのみ票を投じることとした。

欠席する委員についても、投票権があることを確認した。会議日以前に事務局宛に投票候補者を伝えることによって投票することができる。

（3）レポーターについて

候補者毎に1名ずつレポーターとして担当の委員を決め、投票に先立って候補者の業績等の詳細についてレポートを報告することとし、各担当レポーターを決定した。

3月12日12:00までに事務局宛にA4用紙1枚（1000文字）程度のレポートを送信することとした。

（4）その他

・選外となった候補者を、次回募集時に自動的に候補者とみなすかどうかを検討した。次回のみ、自動的に候補者とみなし、また次々回以降もあらためて推薦があれば候補者となり得る、との合意に至ったが、これについては理事会に諮ることとした。

・1名の候補者の推薦書類に研究のタイトルが記載されていなかったため、会議後に事務局から推薦者に要求することとした。会議後事務局より推薦者に連絡し、推薦者から研究タイトルをメールにて受け取った。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

第3回公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会
議事録（案）

1. 開催日時 平成30年3月15日（木）
13時30分から14時30分

2. 開催場所 学会センタービル地下会議室
（〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル地下）

3.出席者

審査委員6名 ＊うちZoom出席者1名

（審査委員会規則第6条に基づき、受賞者決定時点まで非公開）

オブザーバー（担当理事）

中村 正人 宇宙航空研究開発機構

中村 昭子 神戸大学

4.議長 委員長

5.議事

定刻が来たため議長が開会を宣した。

（1）議事録確認

前回会議の議事録を確認した。

（2）候補者レポートに基づく検討

前回会議にて決定した、各候補者の担当委員によるレポートに基づき、各候補者について検討した。なお、欠席した委員によるレポートは三宅賞事務局（中村正人理事）が代読した。
各候補者についてそれぞれ質疑応答を行った。

（3）第一次投票

第一次投票を行った。無記名で2名を用紙に連記する方法で行った。委員長を除く6名の委員が投票を行った。なお、欠席した委員についてはあらかじめ第一次第二次それぞれについて投票を事務局宛に提出しており、会議に先立ってその内容を委員長に伝えられていた。
開票を委員長が行い、中村昭子理事がオブザーバーとして確認した。上位2名を決定した。

（4）第二次投票

第一次投票で上位となった候補者2名のうち、いずれかの氏名を無記名にて記載する方法で行った。
開票を委員長が行い、中村昭子理事がオブザーバーとして確認した。
多数票を獲得した1名を決定し、委員会から推薦する候補者として確定した。

（4）授賞理由の検討

候補者の受賞理由について検討した。日本語、英語それぞれを確定した。
候補者とその授賞理由について、3月27日に予定されている理事会に提出する。
承認された場合、本人への通知およびホームページ等での公開を三宅賞事務局より行う。

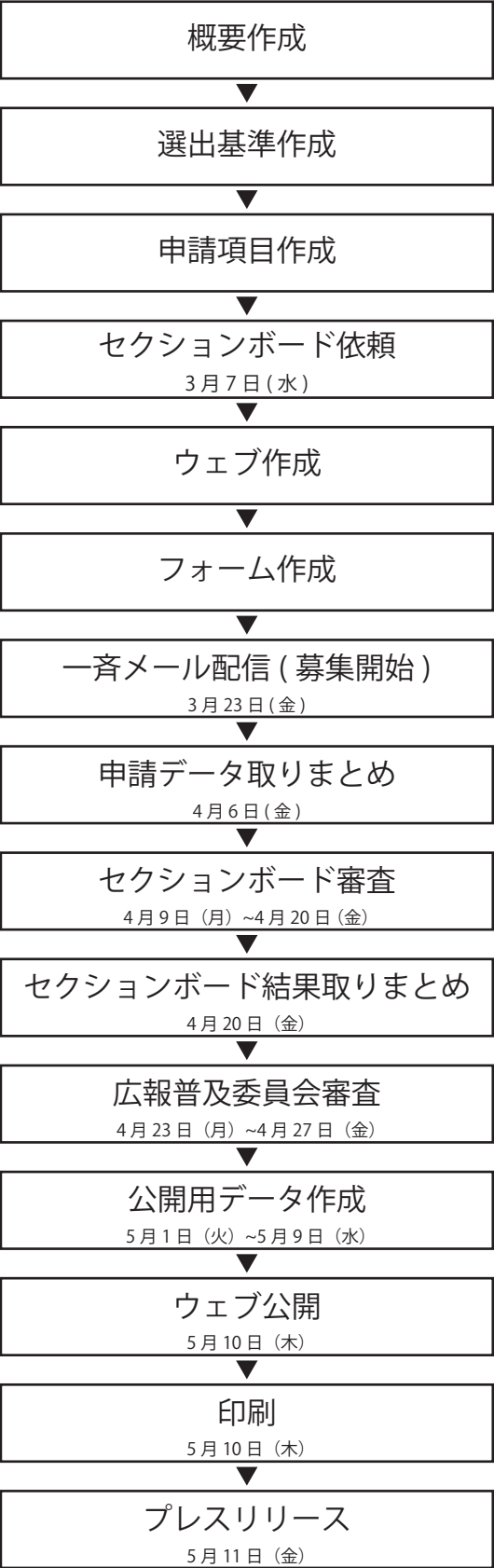
（5）申し送り事項

次回の候補者募集及び審査に向け、申し送り事項を検討した。
委員の半数が改選されることを確認した。前回会議での議論の通り、選外となった候補者を、次回募集時に自動的に候補者とみなすかどうかを理事会に諮ることを確認した。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

プレスリリース (ハイライト論文選出) について

ハイライト論文選出フロー



※予稿 PDF ウェブ公開 5月11日

セッション宛依頼メール

昨年は、ハイライト論文の選出に多大なご協力を賜り、ありがとうございました。本年度も引き続き、ハイライト論文の選出および報道・出版関係者を対象としたハイライト論文冊子を作成・配布したく考えています。選出方法は以下のようで、昨年度から変更はありません。

- (1) ハイライト論文は大会のプレスリリースの一環と位置づける。
- (2) 基本的に立候補制とし、連合大会で発表することを積極的にプレスリリースしたい方にハイライト論文選考希望の申し込みをしてもらう。
- (3) 申し込みのあった発表に対し、まず関連セッションのサイエンスボードで順位付けしていただく。
- (4) その結果に基づき広報普及委員会で選出して大会広報と一緒にリリースする(文科省の記者クラブなどに投げ込みをする)。

セッションボードの先生方にはご負担をかけてしまいますが、「学術的意義及び社会的意義が認められる研究成果を広く社会に発信する価値のある論文かどうか」を基準として、順位付けをお願いいたしたく存じます。

ハイライト論文選考希望の応募は、3月30日(金)までに行い、それを事務局で集計後、応募一覧を4月2日(月)にセッションボードへ送付する予定です。順位付けの結果は、4月13日(金)12:00までにご回答いただけますようよろしくお願いいたします。

(なお、応募一覧には、基本的な発表情報に加えて、応募者が記入した「学術的な意義・インパクト」「社会的な意義・インパクト」なども含まれる予定です。)

年度末・新年度のお忙しいところ恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

申込フォーム

日程	発表タイトル(日, 英)
発表時間	発表者氏名 / メールアドレス
発表会場	学術的な意義・インパクト(日, 英)
セッションタイトル	社会的な意義・インパクト(日, 英)
発表番号	論文発表の有無

募集開始メール

日本地球惑星科学連合は、JpGU 2018 大会に関する報道機関向けプレスリリースを行います。内容は、大会概要およびハイライト講演のリストとその概要です。

ハイライト論文の選定手順は、

- (1) 連合大会で発表することを積極的にプレスリリースしたい方に立候補していただき、(2) 関連セッションのセッションボードで順位付けして、その結果に基づき広報普及委員会で選定する、こととしています。選定基準は、「学術的な意義・インパクト、および社会的な意義・インパクトが特に大きなもの」「広く一般に報道すべきプレスリリース的価値のあるもの」です。記者会見のアレンジはいたしません、個別の取材申し込みが期待できます。口頭・ポスター発表共に応募を受け付けます。プレスリリースを希望する方は、積極的に応募してください。

ただし、応募を受け付けた後、発表内容の「学術的意義及び社会的意義」に関するサイエンスセッションのボードによる第一次審査、広報普及委員会による第二次審査を経て、適切と判断されたものをリリースさせていただきますので、あらかじめご了承下さい。

なお、すでに論文が出版された後でも、学会発表は報道の機会となり得ますので、報道に値する学術的・社会的意義のある研究成果であるとお考えであれば、積極的に応募願います。逆に論文がまだ出版されていない研究成果であっても、社会的意義や速報性が重視される内容であれば、ご自身の判断でご応募ください。

プレスリリースを希望される方は、以下の URL の申請フォームに必要事項を記入してご応募ください。その際、報道関係者の方々にも発表内容の「学術的意義及び社会的意義」がよく分かるように、それらのポイントを簡潔にご説明願います。

<https://business.form-mailer.jp/fms/ad4e773768149>

【締切：2018 年 4 月 6 日(金) 17:00】

地球惑星科学分野の最新の研究成果を社会に発信するため、ぜひ積極的なプレスリリースをご検討下さい。

次号 J G L について

巻・号：JGL Vol. 14 No. 2 (No. 52), 2018.

ページ：24 ページ構成

発行日：2018 年 5 月 1 日発行予定

その他：日本地球惑星科学連合 2018 年大会日本語版プログラムを兼ねる

【内容】

■News 18 ページ [担当：田近]

○連合大会のお知らせ（篠崎）16 ページ

○学術会議だより（藤井）1.5 ページ

■Topics 5 ページ [担当：橘・東宮]

○唐戸俊一郎「地球の水」（担当：）

○海老原祐輔「地球磁気圏ダイナミクス」（担当：高橋）

■Information 1 ページ [担当：田近・事務局]

【広告掲載】

- | | |
|--------------------------------|------------|
| 1. とめ研究所 | 1 / 6 ページ |
| 2. ロックゲート | 1 / 3 ページ縦 |
| 3. 朝倉書店 | 1 / 2 ページ |
| 4. Stallard Scientific Editing | 1 / 6 ページ |
| 5. 株式会社パレオ・ラボ | 1 / 6 ページ横 |

次号広告収入：392,600 円

本年度 J p G U 旅費援助者の決定

H 3 0 . 3 . 2 7

顕彰委員会

本年度は国外旅費（去年の AGU に選考を任せた）、国内旅費を審査した。予算は 500 万円、一人あたりの援助上限は国外 10 万円、国内 5 万円である。

応募者 142 名に対し国内 32 名（去年は国内 38 名）、国外 29 名の合計 61 名を選び 3 月 14 日に公表した。

応募者 142 名全員が連合大会で発表予定である事を確認した。また、義務づけられている事後レポートを提出しなかった者も含まれていないことを確認した。

選考の基準は、

- 1) 収入、他に旅費サポートの当てがないかどうか
- 2) 応募の動機が十分か
- 3) 性別、出身地で Minority であると見なされるかとした。

応募の動機の文章（170 words）が同一の国外応募者（同一機関）が 2 人いた。

以上

2018年連合大会 学生旅費助成応募者・採択者分析

全体	応募者	採択者	比率
男性	96	41	0.427
女性	45	20	0.444
合計	141	61	0.433
Japan	69	23	0.333
Indian	31	19	0.613
Korea	7	3	0.429
Indonesia	6	3	0.5
China	5	3	0.6
Taiwan	5	2	0.4
Filipino	3	1	0.333
Turkish	2	2	1
Malaysia	2	0	0
Russian	2	0	0
French	2	1	0.5
Thai	1	1	1
Nepal	1	1	1
Brazilian	1	0	0
USA	1	1	1
Belgium	1	1	1
Mongolia	1	0	0
British	1	0	0
日本とインド以外	41	19	0.463

2017年度選挙スケジュール

	月日	曜	進行
	7/21	(金)	理事会(選挙委員会立ち上げ)
代議員選挙	7/31	(月)	定数確定
	8/1	(火)	選挙公示
	8/10～9/11		候補者受付期間
	9/13～9/20		第1回選挙管理委員会 : 候補者確定
	9/22	(金)	候補者リスト公開
	10/2～11/1		投票期間
	11/2	(木)	第2回選挙管理委員会 : 開票、当選者確定
	11/6	(月)	開票結果公開
セクション プレジデント 選挙	11/6	(月)	選挙公示
	11/7～16		候補者受付期間
	11/16	(木)	第3回選挙管理委員会(メール審議
	11/20	(月)	当選者確定(各セクション1名ずつのため選挙無し)
理事候補者 選挙	12/13	(水)	選挙公示
	12/21～2018/1/11		候補者受付期間
	1/15	(火)	第4回選挙管理委員会 : 候補者確定
	1/31～2/15		理事候補者選挙投票期間
	2/23	(金)	第5回選挙管理委員会 : 開票
	3/26	(月)	役員候補者推薦委員会 : 候補者リスト確定

平成 29 年度第 5 回選挙管理委員会議事録

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成 30 年 2 月 23 日（金）午前 10 時 00 分から午後 12 時 00 分
2. 開催場所 連合事務局（東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階）
3. 出席委員 癸生川 陽子（委員長）
飯塚 毅
一瀬 建日
小寺 浩二
鈴木 毅彦
中田 裕之

オブザーバー 総務委員長 古村 孝志

（敬称略）

4. 議事

定刻を迎えたため癸生川委員長が議長として開始を宣言した。

（1）理事候補者選挙開票・集計、順位確認

133 通の投票用紙を受領し、20 名以上に投票をした無効票が 2 通あったためそれを除いて 131 通を有効票とした。

また、開票集計作業を 2 回繰り返し、間違いがないことを確認した。

集計後、候補者一覧を得票順に並べ替え、同票の場合は年齢の若い候補者を上位とした。

（理事候補者選挙実施細則第 6 条）

（2）次回選挙への申し送り事項

次回選挙への申し送り事項を検討した。

15 名を越えて投票した者がいたので、投票可能数の周知徹底および投票用紙の改善が必要である。

候補者の所属の書式について候補者間の表記の揺れについて是正が必要である。また会員登録と立候補・推薦届出書等の記載が異なっている場合どちらを正とするか等、検討が必要である。

現在、選挙の名称の年度を、選挙を実施する年度としているが、任期が開始する年度を名称とするのが望ましい。

議長は以上をもって議事が終了したことを告げ、閉会を宣言した。

2017 年度理事候補者選挙結果

公示 2017 年 12 月 13 日 投票受付期間 12 月 21 日～2018 年 1 月 11 日 開票 2 月 23 日

有権者（次期代議員）総数 150 名

投票総数 133 票

有効票数 131 票

田近 英一（東京大学）89 票

川幡 穂高（東京大学 大気海洋研究所）87 票

ウォリス サイモン（東京大学）79 票

木村 学（東京海洋大学）78 票

古村 孝志（東京大学 地震研究所）70 票

中村 正人（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所）70 票

浜野 洋三（無し）69 票

阿部 なつ江（海洋研究開発機構）65 票

西 弘嗣（東北大学学術資源研究公開センター）64 票

日比谷 紀之（東京大学大学院理学系研究科）62 票

村山 泰啓（情報通信研究機構）59 票

松本 淳（首都大学東京）58 票

成瀬 元（京都大学）57 票

倉本 圭（北海道大学）53 票

中村 昭子（神戸大学）52 票

道林 克禎（静岡大学）49 票

井出 哲（東京大学大学院理学系研究科）44 票

河宮 未知生（海洋研究開発機構）44 票

佐藤 正樹（東京大学大気海洋研究所）44 票

市川 洋（無し）44 票

小口 千明（埼玉大学）43 票

掛川 武（東北大学大学院理学研究科）43 票

鈴木 勝彦（海洋研究開発機構）39 票

小口 高（東京大学）39 票

吉田 尚弘（東京工業大学）38 票

近藤 昭彦（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）36 票

加藤 雄人（東北大学）30 票

（得票順に掲載、敬称略）

理事候補者選挙実施細則第 6 条に基づき、同票の場合は年齢の若い候補者を上位としました。

H30/3/27 理事会資料(ジャーナル関連)

1. PEPS 論文投稿・出版状況(資料 J_1)

・論文投稿数(Total:340)

～2015 年: 146 (Review-42, Research-95, Methodology-4, Editorial-4, Correction-1,)
2016 年: 61 (Review-6, Research-50, Methodology/Preface/Datapaper-4, correction -1)
2017 年: 110 (Review-11, Research-92, Methodology/Preface/Datapaper-6, correction -1)
2018 年: 23 (Review-3, Research-19, correction -1)

・出版論文数(Total:172 Review 論文 24.4%)

～2015 年: 75 (Review-22, Research -49, editorial-3, Correction-1)
2016 年: 38 (Review-10, Research-22, Methodology-1, Preface-3, Editorial-1, correction-1)
2017 年: 42 (Review-7, Research-33, Methodology-1, correction-1)
2018 年: 17 (Review-1, Research-15, correction-1)

・査読中 : 54 (Review-7, Research-47)

・英文校閲・出版校正中: 8 (Review-2, Research-4, Methodology/Preface/Datapaper-2)

・reject/withdrawn 済: 106 (31.9%)

2. 平成 30 年度科学研究費助成事業「国際情報発信強化」ヒアリング審査報告(資料 J_2-J5)

2018/3/1 JSPS において、申請中の科研費のヒアリングが実施され、川幡会長・井龍総編集長・浅田(事務局)が出席し、添付資料にて説明した。

また、主に下記のような質疑応答があった。

Q: レター誌との関係

参加学会の既存ジャーナルがレターを扱っているため、コンフリクトを避けるために PEPS はレビューとリサーチ論文中心とし、レターは EPS や他の分野というカテゴリを作りながら、共同発展できる体制をとっていく予定。

Q: 参加学会の出版するジャーナルとの関係

基本コンセプトは他ジャーナルの扱わないレビュー論文を扱い、連合大会の発表内容を中心に文字媒体として出版。春は連合大会、秋の各学会の発表成果は各ジャーナルへの投稿中心といった方向を考えている。

Q: 5 年間の取組での問題点と克服、今後の取組

問題は色々あったが、それらを克服したからこそ現在 2.5 以上を見込める IF が取得できるところまで来たといえる。出版数が少ないのは問題点として挙げられるが、方針として質の確保を重視してきたので、今後は質を保ちつつ出版数を増やし IF3.5 を目指すのが目標。AGU, EGU のジャーナルは 3.0 くらいなので、IF3.5 は、新規ジャーナルではあるものの、対等に競争できる位置にあると言える。

Q: 1 万人の会員がいるにしては出版数が少ない。また、外国からの投稿比率は？

外国からの投稿は 40%。出版数が少ない大きな理由は、IF のないジャーナルから出版しても、国研等の若手研究者・大学人事においても、成果として認められないのが一番の問題。ベテラン研究者の投稿と努力により、高い値が期待される IF 取得まで来て、若手研究者が投稿できる段階に達した。将来的には若手研究者が「人生の大事な場面で、良い成果を投稿するジャーナル、PEPS が人生を掛けられるジャーナル」となれば、PEPS は数十年続く良いジャーナルとして継続すると考える。

Q.1 論文あたりのコストが高いが、今後の対策は

今までは質を中心に取り組んできたが、今後は論文数の増加が見込めるので、1論文あたりの単価は低くなる予定。また、そうしていかないと IF3.5 を達成していくこともできない。質を担保しながら出版数の増加する取組身をきちんと行なっていきたいと考えている。

3. AGU-EOS (Earth & Space Science News) 広告(資料 J_6)

AGU-EOS の 3 月号に JpGU2018 及び PEPS の IF 取得の広告を掲載。

<https://eos.org/wp-content/uploads/2018/02/mar-18-eos-magazine.pdf?x35494>

4. 連合大会 2018 ジャーナルセッション開催

連合大会において、[U-05] (地球惑星科学における学術出版の将来)をテーマに、今年も、ジャーナルセッションを開催。3名の招待講演に加え、パートナーシップのある参加学会誌 4 誌のポスター発表も行われる。

	2016				2017				2018				Total			
	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total
1. Space and planetary sciences	2	5.6%	1	3	2	4.9%	3	5	1	6.3%	4	5	13	14	0	27
2. Atmospheric and hydrospheric	2	5.6%	3	5	1	2.4%	9	10	0	0.0%	5	5	7	8.5%	0	16.5%
3. Human geosciences	0	0.0%	1	1	0	0.0%	7	8	0	31.3%	1	1	4	15.2%	0.0%	19.5%
4. Solid earth sciences	3	8.3%	13	19	2	0.0%	9	11	0	6.3%	4	4	11	7.9%	0.6%	8.5%
5. Biogeosciences	0	0.0%	3	3	0	4.9%	4	4	0	25.0%	0	0	2	31.1%	1.8%	39.6%
6. Interdisciplinary research	3	8.3%	1	5	0	9.8%	4	4	0	0.0%	0	0	2	6.1%	0.0%	7.3%
	3	8.3%	1	5	2	2.4%	1	3	0	0.0%	1	1	7	3.7%	0.6%	8.5%
Subtotal	10	27.8%	22	4	36	7	33	1	41	1	15	0	40	119	5	164
Editorial/Correction	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
Total				38				42								172

(2018/03/22)

	2016				2017				2018				Total			
	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total
1. Space and planetary sciences	1	1.7%	5	6	7	6.4%	19	26	0	0.0%	0	0	19	41	1	61
2. Atmospheric and hydrospheric	1	1.7%	9	10	1	0.9%	30	32	0	3.0%	3	3	10	57	1	68
3. Human geosciences	0	0.0%	7	7	0	0.0%	7	7	1	13.6%	4	5	2	26	0	28
4. Solid earth sciences	3	5.0%	20	25	1	0.9%	19	22	1	18.2%	6	7	18	85	7	110
5. Biogeosciences	0	0.0%	5	5	0	0.0%	7	7	1	27.3%	2	3	3	20	1	24
6. Interdisciplinary research	1	1.7%	4	5	2	1.8%	10	14	0	9.1%	4	4	10	27	4	41
	1	1.7%	6	7	2	1.8%	7	12	0	18.2%	0	0	2	27	4	41
Subtotal	6	10.0%	50	4	60	11	92	6	109	3	19	0	62	256	14	332
Editorial/Correction	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
Total				61				110								340

(2018/03/22)

注: 2016年～2018年の総投稿数には、投稿システム内で投稿番号が付与されないErratum原稿各1件も含むため、実際の投稿受付番号よりも1件ずつ多い。

■編集状況

	2016				2017				2018				Total			
	Review	Research	Methodology/ Data paper /Preface	Editorial + Correction	Review	Research	Methodology/ Data paper /Preface	Editorial + Correction	Review	Research	Methodology/ Data paper /Preface	Editorial + Correction	Review	Research	Methodology/ Data paper /Preface	Editorial + Correction
Published	40	119	5	164	40	119	5	164	8	172	8	172	8	172	8	172
Accepted including	12.0%	35.8%	1.5%	49.4%	12.0%	35.8%	1.5%	49.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Provisionally-accepted	2	4	2	8	2	4	2	8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Under review	7	12	0	54	7	12	0	54	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Rejected/Withdrawn	12	87	7	106	12	87	7	106	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	3.6%	26.2%	2.1%	31.9%	3.6%	26.2%	2.1%	31.9%	-	-	-	-	-	-	-	-
Total	61	257	14	332	61	257	14	332	8	340	8	340	8	340	8	340
	18.4%	77.4%	4.2%	100.0%	18.4%	77.4%	4.2%	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-

(2018/03/22)

オープンアクセス電子ジャーナル

「Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)」による
地球惑星科学に関する国際情報発信強化の取組
(研究成果公開促進費 国際情報発信強化)

Progress in Earth and Planetary Science

(公益社団法人)日本地球惑星科学連合

会長 川幡 穂高(ジャーナル担当理事, ジャーナル企画経営委員長)

総編集長 井龍 康文(PEPS総編集長)

事務局 浅田智世(PEPSジャーナル事務局長)



Open Access E-Journal PEPS



参加学協会との共同出版

- * 共同提案
- * 参加学会から編集委員・運営委員の選出
- * 海外編集委員の推薦
- * 質の高い原稿の執筆依頼

* パートナージャーナルの宣伝



PEPSはJpGU参加50学協会の賛同に基づいて出版している

(2012年10月2日、JpGU学協会長会議決定事項)

日本宇宙生物科学会, 日本応用地質学会, 日本温泉科学会, 日本海洋学会, 日本火山学会, 形の科学会, 日本活断層学会, 日本気象学会, 日本鉱物科学会, 日本地図学会, 日本古生物学会, 日本沙漠学会, 資源地質学会, 日本地震学会, 日本情報地質学会, 日本水文科学会, 水文・水資源学会, 生態工学会, 日本雷氷学会, 生命の起原および進化学会, 石油技術協会, 日本測地学会, 日本大気化学会, 日本大気電気学会, 日本堆積学会, 日本第四紀学会, 日本地学教育学会, 地学団体研究会, 日本地下水学会, 日本地球化学会, 地球環境史学会, 地球電磁気・地球惑星圏学会, 日本地形学連合, 日本地質学会, 日本地熱学会, 地理科学学会, 日本地理学会, 日本地理教育学会, 地理教育研究会, 地理情報システム学会, 東京地学協会, 東北地理学会, 土壌物理学学会, 日本粘度学会, 日本農業気象学会, 物理探査学会, 日本陸水学会, 陸水物理学会, 日本リモートセンシング学会, 日本惑星科学会



日本地球惑星科学連合 (JpGU; Japan Geoscience Union)

- 1990年(H2) 地球科学関連5学会が合同で学術大会を開催したのが始まり
 2005年(H17) 日本学術会議の改革に対応調整する窓口組織として発足
 2008年(H20) 一般社団法人 日本地球惑星科学連合
 2011年(H23) 公益社団法人 日本地球惑星科学連合

地球惑星科学の50学協会が参加

毎年5月に5日間千葉県幕張メッセにおいて連合大会を開催(秋は各学会が独自開催)

全参加者 約7,000人, 学生(33%), 毎年増加傾向↑

2017年(H29) JpGU-AGU共同開催, 全参加者8,450人, 学生(33%)

海外からの参加者 >1,000人

(土・日曜日にはアウトリーチイベントを開催. 一般は無料)

2020年(H32) 第2回JpGU-AGU共同開催

2021年(H33) パシフィコ横浜で開催(前回は2014年)

AGU(American Geophysical Union: アメリカ地球物理学連合) 参加者24K, 会員60K

EGU(European Geosciences Union: ヨーロッパ地球科学連合) 参加者12K, 会員13K

→ 両連合とMoU協力関係を結び, 毎年Joint sessionを継続開催

→ JpGU は日本に基盤を置き, 世界に科学成果を発信する拠点 となることを目指す



3

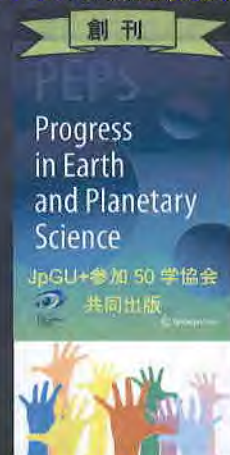
JpGUの組織



JpGUでは多くの学協会にまたがる地球惑星科学の多くの学問分野を5つのサイエンスセクションに集約

- ・宇宙惑星科学
- ・大気水圏科学
- ・地球人間圏科学
- ・固体地球科学
- ・地球生命科学

セクションが研究活動の基盤



国際情報発信の取組

独自のジャーナルを創刊する意義:

学問の自由+日本の得意分野の発展を通じての世界の地球惑星科学発展への貢献

JpGU連合大会の発表の誌上発表+日本のオリジナルな発想の誌上発表

本申請の目標

地球惑星科学のコミュニティの研究成果の文字媒体による国際情報発信を目的

「Progress in Earth and Planetary Science」

- 1 地球惑星科学における世界の一極を担えるオープンアクセス(OA)電子ジャーナルの出版
- 2 連合大会の多角的・統合的な成果の公表
- 3 参加学会との共同出版

発展の歴史

2009年4月「完全OA電子ジャーナルの検討開始」 当初の5年間計画、順調に発展中

2012年3月「ジャーナル名"Progress in Earth and Planetary Science"に決定」

2013年4月「科研費(研究成果公開促進費)採択」

2013年6月「出版会社入札」→Springerに決定

2013年6月 編集委員会発足

2013年10月「PEPS投稿受付開始」

2014年4月22日「PEPS出版開始」

2015年「トムソンロイターのESCI,スウェーデン大学図書館のDOAJの登録雑誌となる」

2017年10月「ElsevierのSCOPUS採録決定」

2017年11月「Clarivate Analytics (旧Thomson Reuter) のWOS (IF)採録決定」

2018年6月 最初の「Impact factor, 試算値 > 2.5」

5

前回科学研究費補助金(2013-17FY)の計画と達成状況

完全OA電子ジャーナルを創刊します

→ PEPS創刊 - 2014年4月22日

地球惑星科学の50学協会との共同出版実行開始

→ 2013年10月から投稿開始

世界五大陸に拠点をもつ海外出版会社と提携

→ SpringerOpenと提携 - 2013年7月

【レビュー論文の掲載率: 20%】

→ 投稿率、掲載率ともに30%

【世界への情報発信】

→ 総ダウンロード数11.5万件(創刊~2017年)

【世界の中での創刊ジャーナルの目標, IF>2.5】

→ 試算値IF>2.5(2018年6月に発表される予定)

世界的な引用文献DBに収録決定(Clarivate Analytics (旧Thomson Reuter) のWOS (IF), ElsevierのSCOPUS等)

【優秀論文の発掘】

→ 連合大会セッションチェアの推薦, 連合Award受賞者・著名科学者への執筆依頼

【広報】

→ ホームページの日本語Abstract, SNS, MyJpGU, 各種交際学会・イベント等を通じて、ジャーナルと出版論文を積極的に紹介

前回科学研究費補助金(2013-17FY)の計画の具体的達成内容

【平成24年度/2012年(開始準備)】JpGUジャーナルは「オープンアクセス(OA)・電子ジャーナル」で、創刊は2014年1月を予定しています。レビュー(総論)にも高い比重をかけます。本事業では2つの委員会を設置します。JpGUのサイエンス・セクション・ボードと理事会が協議し、委員を任命します。編集委員は海外:国内を50%ずつとします。

→すべて実行済み

【平成25年度/2013年(1年目)】2013年4月末までに出版会社との契約を完了し、2013年5月以降、電子出版プラットフォーム(投稿システム)での投稿を開始します。投稿された論文をOA電子出版で2014年(H26)1月に創刊します。開始にあわせて、海外向けにはAGU, EGUなどのニュースに広告を掲載します。JpGU連合大会の優秀発表論文については掲載料の補助を行います。

→すべて実行済み

【平成26年度/2014年(2年目)】OAジャーナルでは初年度出版においては800ページを予定しています。

→創刊時期が遅れたため、400ページとなっています。(2017末 2,570ページ)

【平成27年度/2015年(3年目)】JpGU参加5学会が共同で出版してきた既存ジャーナルEPS(Earth, Planets and Space)誌とプラットフォームを統一し、海外情報発信能力を強化し、PEPSはレビュー+フル論文重視、EPSはレター中心誌として協力して出版を開始します。

→協力して、オープンアクセスジャーナルの出版事業を推進しています。

【平成28年度/2016年(4年目)】IFが付与されるのは2017年ですが、実際に計算することはできません。引用度数と投稿論文数に基づき、2016年度に編集体制、2017年1月からの著者負担額の見直しを行います。

【平成29年度/2017年(5年目)】この年度に初めてIFが付与されます。科研費による著者負担額の減額(補助)の最終年度となります。当該年度までに、この分野で世界に流通するジャーナルの中でもトップクラスの一極を担い、日本学術振興会の補助なしに「独り立ち」できるまで成長しようと考えています。

→Springerと協力して、IFが付与される引用文献DBに収録決定。

【複数の学術団体等による協力体制】将来的には、50学会の共同出版であるPEPSに加えて、加盟学会から要請があればレター重視のジャーナルをそろえて、皆が共同して編集・運営を協力して行い、国際的な情報発信を展開します。IFが付与された後には、経営の安定的発展できるように、雑誌のブランド価値を高めるように経営します。

→自律的出版が継続できるように、創刊雑誌PEPSのブランド力を高め、効率的な経営を行います。

7

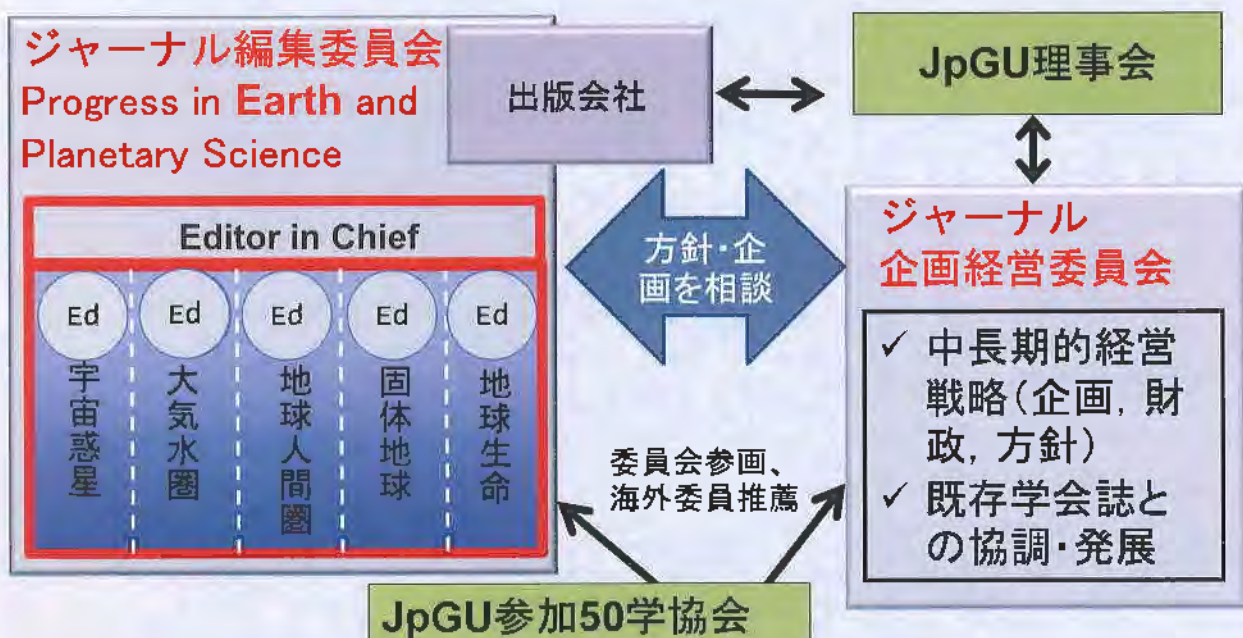
【現在までの取組】取組体制、取組内容

✓投稿数317, 出版数155, ページ数2,707 ~@2017

✓2014年創刊, 活動経費の一部は独自予算(約400万円)で遂行。

✓企画経営と編集を司る2つの委員会を設置し, JpGU理事会およびJpGU参加50学協会との協力のもとで運営する。

✓編集委員の半数は海外の科学者。



【活動実績】投稿・出版・被引用数実績

- ✓2016年: 投稿61 (Review-6, Research-50, Methodology/Data paper等-4, Correction-1)
出版38 (Review-10, Research-22, Methodology-4, Editorial-1, Correction-1)
- ✓2017年: 投稿110 (Review-11, Research-92, Methodology/Data paper等-6, Correction-1)
出版42 (Review-7, Research-33, Preface-1, Correction-1)
- ✓AGU, EGUのジャーナルと同様かそれ以上の質の論文が70%以上を占める。
- ✓Review論文の構成比率 (39/148) 約30%. (平均ページ数: Review論文24, 通常15)
- ✓出版論文へのPDFダウンロード総数は約11.5万件で、当分野の世界の一流国際誌のに匹敵。
- ✓試算 Impact factor は、2.5以上を達成。

Google ScholarおよびWoS Core Collection調査に基づく、PEPS論文被引用状況

	論文数	2017/1/1～2017/12/31の被引用回数				WoS Core Collection 調査
		Google Scholar調査			合計	
		ジャーナルから (うちWoS掲載誌から)	書籍、学会発表、 学位論文等から			
2015/1/1～2015/12/31に出版された論文	46	141	(129)	14	155	119
2016/1/1～2016/12/31に出版された論文 (Editorial/Frontmatter/Preface 5編を含む)	38	62	(77)	5	87	58
合計 (Editorial/Erratum/Preface 6編を含む)	84	223	(206)	19	242	177
2017/12/31の被引用率		2.823	2.608 (2018/01/18現在)	0.241	3.063	2.241 (2018/02/09現在)

*被引用率: 2015年および2016年に出版された論文が2017年に引用された回数を、2015年と2016年に出版された論文合計数で割った値

- 2017FY: 206 Citation (Js registered by Thomson Reuter), 242Citation (All Journals + books)
- Our research field requires a long LEAD TIME (>5 months).
- These values are minima. Surely we can exceed our target (more than 3, officially >2,5).

本科研費提案(2018-22FY)の内容

【PEPSによる研究成果の国際発信力強化】

【新規1<IF採用雑誌>: Thomson Reuter, SCOPUSでの評価の向上】

<質の高い原稿集め>→海外国際誌に流れる日本人+海外研究者とともにPEPSへ誘導

<投稿・出版論文数の増加>→特集号<SPecial call for Excellent Papers on hot topics (SPEPS)>の企画

<顕彰制度の新設>→高Access賞, 高被引用賞に加え、論文賞, 査読者賞を新設

<査読・出版プロセスの改良>→より迅速な出版

<編集体制のバージョンアップ>→海外の優れた人材を編集長に

【新規2:データ出版「Paper with Full Data Attached」の創設】科学的トピックス+データセット→モデリング研究などアニメーションを用いた出版にも適用

【新規3:レビュー論文(30%)とvirtual冊子】→教材としての活用

		IF	経営	出版	年会とのリンク	共同発行
2022年度 H34年度	2023年	IF目標 >3.0	APCの収定による経営基盤 強化	年間 150編出版 著者50ヶ国	*海外学会とのシ ンポジウム共同開催	*レター賞の EPSとの共同 出版に向けた行動
2021年度 H33年度	2022年		継続的な Royalty収入	アクセス数 増加	*JpGU-AGU, EGU 共同セッション	*EPSとの共同 出版開始
2020年度 H32年度	2021年	IF取得 2.7-3.0	新APC による 出版	年間 100編出版	*第2回 JpGU-AGU共同 開催	*EPSによる論 文→PEPSによる 査読者賞のリン クによるプロ ジェクト等の成 果発表のリンク
2019年度 H31年度	2020年	SCOPUS 採択	出版契約更新	PDFダウン ロード増加	*JpGU-AGU, EGU 共同セッション	*EPSと海外学 会ブースで共同 出版活動
2018年度 H30年度	2019年	WOS 採択 ★新規	現行APCに よる出版	年間 100編出版	*JpGU-AGU, EGU 共同セッション	

本科研費提案(2018-22FY)の内容

【新規4＜特に海外の学会との協力を媒体とした年会とジャーナルのリンケージ＞】

【JpGU連合大会の国際化促進】→海外からの投稿促進

→AGU共同開催@2017, 2020, AGU+EGU+AGSとのJoint sessionsの継続的開催

【新規5＜兄弟ジャーナルの効率的な出版促進＞】

【JpGU参加学会の国際誌との連携】

→Partner誌の系統的な広報活動

→特に【レター重視 Earth, Planets and Space】の応援・共同出版

【新規6＜自立への方策＞】

→国際競争に耐えうる高いIFを獲得し、

→大会での「最先端」の発表を、文字媒体での「PEPS」への論文の発表を促す

→「PEPSを人生を賭けられるジャーナル」として確立する

	IF	経営	出版	年会とのリンク	共同発行
2022年度 H34年度	2023年	IF目標 >3.0 APCの改定による経営基盤 拡充 継続的な Royalty収入	年間 150編出版 著者50ヶ国 アクセス数 増加 年 100編出版 PDFダウン ロード増加	*海外学会とのシ ンポジウム共同開催 *JpGU-AGU, EGU 共同セッション *第2回 JpGU-AGU共同 開催 *JpGU-AGU, EGU 共同セッション *ジャーナル・大 会をリンクさせた 海外への情報発信 *JpGU-AGU, EGU 共同セッション	*レター重視の EPSとの共同出 版に向けた行動 *EPSとの共同 出版開始 *EPSによる読 者→PEPSによる 金庫とめり ンクによるプロ ジェクト等の成 果発表のリンク *EPSと海外年 会ブースで共同 広報活動
2021年度 H33年度	2022年				
2020年度 H32年度	2020年	IF取得★⇒新APC 2.7-3.0による 出版	論文の拒絶率 (20-30%)、拒り は「VIRTUAL 新刊 の制作」		
2019年度 H31年度	2019年	SCOPUS 採択	出版契約更新 発行APCに よる出版★		
2018年度 H30年度	2018年	WOS 採択 ★新規			

11

【予算要求の主な内訳】

Progress in Earth and Planetary Science

1. OA電子ジャーナルの出版料: **1論文あたり1000ユーロ**(現在は約13万円).

2600万円@'23年→【独り立ち後】著者負担.

2.論文受理後の**英文校閲(品質管理)**経費: 400万円. →【独り立ち後】著者負担.

3.「海外情報発信強化」の**編集会議の経費**+海外委員がJpGUの連合大会の際に編集委員会に参加する旅費: 350万円→【独り立ち後】出版収入+JpGU負担.

→【IF取得後】出版料を段階的に引き上げ、**出版収入3000万円@'23年(非会員30万円, 会員14万円, 出版論文200編)**, JpGU収入@'23年(1100万円)

4.「海外情報発信強化」のために、**PEPS実務編集者を補助する事務職員**の人的費:

700万円. →【独り立ち後】JpGU負担.

5.HP, SNS等を使った**情報発信・引用促進費**: 100万円. →【独り立ち後】出版収入負担+JpGU負担.

6.**国際セッション開催の加速**経費: 200万円. 【IF取得後】大幅減額JpGU負担移行.

7.広告・宣伝費用: 300万円→減額して【独り立ち後】JpGU負担.

8.当該学術刊行物の「海外情報発信強化」実務関係、通信費およびコンピュータ・事務所の借料、消耗品費: 150万円. →【独り立ち後】JpGU負担.

12

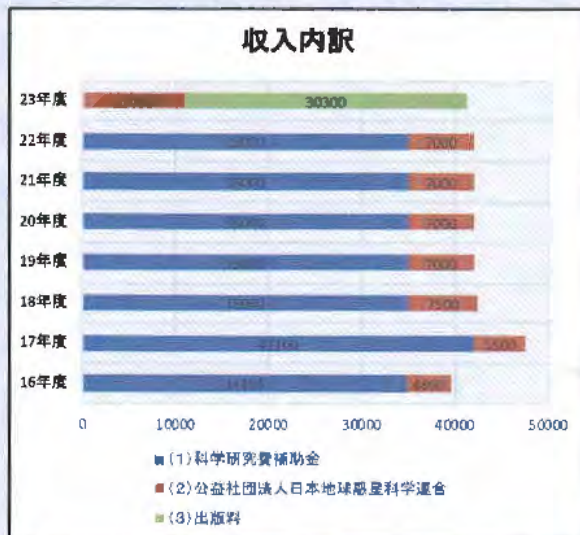
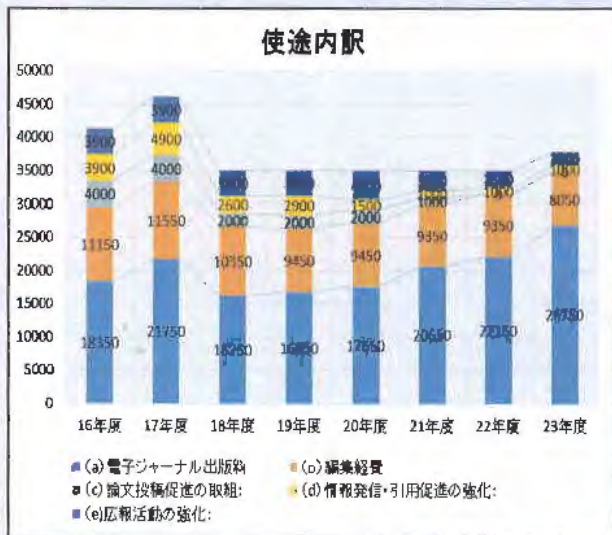
【経営】財務

✓出版本数('16:46, '17:50, '18:80, '19:90, '20:100, '21:150, '22年~200)

✓科研費研究成果公開促進費の効果的運用:「レビュー論文の投稿料の割引」,「著名海外研究者の招聘の旅費援助(レビュー執筆必須)」,「国際セッション+シンポジウムへの援助(執筆必須)」,「電子媒体による広報」,「特に海外における広報」,「英文校正による品質保持」.

✓AGUなどで「Geoscience Japan」など,「日本の地球惑星科学の見える化」を促進.

✓将来:経営的にはIFを取得した後,投稿料を(印刷料+編集委員会活動)を負担するまで段階的に引上げ,広報・編集事務局運営等については,JpGUの経費で支出し,自立したいと考えている.



13

まとめ

Progress in Earth and Planetary Science

1. JpGUは参加学協会と共に完全OA電子ジャーナル(Springer社)出版を発展させている.
2. レビュー論文の掲載率は30%と高く(当初目標20%),教材としての利用を促進する.
3. 高いダウンロード数(11.5万件)をより促進し,世界への情報発信を強化する.
4. データ出版や特集号を推進し,PEPSの利用を促進する.
5. IF>3.0を達成し,地球惑星科学において世界と競争できる上位15%を目指す.
6. 日本全体として世界の地球惑星科学の発展に寄与すべく,JpGU参加学協会の出版にも協力し,広報活動を促進する.
7. AGU/EGUとの年会の共同開催等を利用し,海外への情報発信を有効・効率的に行う.



Open Access E-Journal
PEPS



□

■ 1. 巻頭言 (2017年2月)

公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 川幡穂高

今年は例年になく寒い冬です。インフルエンザもA型とB型の両方が流行っているとのことで、気をつけていただければと思います。連合大会の投稿受付は、2月19日17時までです。よろしくお願いいたします。

日本学術会議に学会として登録されるには、「年会の開催」と「学会誌の発行」が必須条件です。年末にメールでお知らせしたように、JpGUと参加学協会が共同出版するオープンアクセス雑誌「Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)」が、クラリベイト・アナリティクス (旧トムソン・ロイター) 社のWeb of Scienceによる引用文献データベースに収録され、2018年6月にPEPSの最初のImpact Factor (IF) が発表される予定です。最初の数字は目標としていた「2」～「3」の真ん中 (*補足1) になりそうです。これまでPEPSを支えてくださった多くの著者、査読者、読者、学協会の皆さまのお力添えに感謝する次第です。

IFは「文献引用影響率」と訳され、ある雑誌に掲載された「平均的な論文」が、その対象期間中に、どれだけ頻繁に引用されたのかを示す尺度です。2017年のIF=(2017年の総引用回数)/(2015年+2016年に出版した論文総数)となります。この尺度は、アメリカ人のEugene Garfield教授により1955年に発表され、半世紀以上が経過しています。本人が述べているように、長所は「学術雑誌」の評価指標として便利なこと、自分の書いた論文がより多くの人の目に触れて欲しいと思った際に投稿先を選ぶ際に役立つことです。一方、「この論文のIFを知りたい」、「私のIFはいくつか」といった問いは典型的なIFへの無理解を示しています。さらに、研究者の投稿した論文掲載誌のIFを合計して業績評価とするのも無意味です。地球惑星科学の分野の論文は長期間引用されるので、5年分の論文から計算された「5-Year IF」の方が通常のIFより高い雑誌が、私達の分野には結構あります。

さて、皆様は年間どのくらい英語の論文を読まれるでしょうか？毎日1つという勉強家、平均すると毎月1つしかきちんと読めない多忙な研究者もおられるかもしれません。テネシー大学の調査によると、英語が母国語のアメリカ人でも年間250論文位しか読めないようです。まして、英語が外国語である普通の日本人にとっては、論文を読むのに相当の時間が必要です。本来はオリジナル論文を網羅的に読むのが理想的かもしれませんが、広い分野の中での研究項目の位置づけや、少し離れた分野の将来の課題などに関する情報を効率的に得るには、質の高い「総論=Review article」が有用です。そのため、PEPSでは「Review article」の出版にも重点を置いています。

「なぜ、自分たちのコミュニティで有力雑誌を持つ必要があるのか？」とたびたび質問されますが、その答えとなる良い実例が物理学の分野にあります。理論物理学者の湯川秀樹博士によるノーベル賞の対象となった原稿は、当初有力な商業誌に投稿されましたが、「却下=Reject」されたそうです。その分野の核心をついた論文は、京都大学の紀要と日本の物理学会の学術誌に掲載されまし

た．時代を超えたアイデアを掲載できたことに，これらの雑誌は今でも誇りを感じているそうです．

JpGUにおけるジャーナル出版の究極の目標は，「日本の地球惑星科学コミュニティからの国際情報発信」です．これまでもAGU, EGU, AOGSなどのJpGUブースでJpGU参加学会の国際誌の広報活動を行なっており，今後はより系統的にこれを推進します．

日本列島は地質学的に世界で最も活動的な縁辺域に位置し，ユーラシア大陸と太平洋の影響を受けて気候や環境も独特です．日本のコミュニティは高い分析技術に裏打ちされた世界のトップクラスの研究レベルにあります．これらの先進的な分野で，「革新的なアイデア」を掲載できる雑誌を皆様とともに作っていきたいと考えております．皆様の優れた研究成果をPEPSやJpGU参加学会の雑誌にご投稿いただきたいと思います．

*補足1

6月に（暫定）IFが発表されますが，誤りなどがある場合には10月までにClarivate Analytics（旧Thomson Reuter）にリクエストすると改訂してくれるそうです．

Google ScholarおよびWoS Core Collection調査に基づく、PEPS論文被引用状況

		2017/1/1～2017/12/31の被引用回数					WoS Core Collection 調査
論文数	Google Scholar調査				合計		
	ジャーナルから	(うちWoS採録誌から)	書籍、学会発表、 学位論文等から				
2015/1/1～2015/12/31に出版された論文	46	146	(131)	14	160	127	
2016/1/1～2016/12/31に出版された論文 (Editorial/Erratum/Preface 5編を除く)	33	84	(79)	5	89	66	
合計 (Editorial/Erratum/Preface 5編を除く)	79	230	(210)	19	249	193	
2017/12/31の被引用率(推定値)		2.911	2.658	0.241	3.152	2.443	
					(2018/03/15現在)		
					(2018/03/15現在)		

*被引用率: 2015年および2016年に出版された論文が2017年に引用された回数を、2015年と2016年に出版された論文合計数で割った値

2018 年春現在の主要雑誌 IF など

「Progress in Earth and Planetary Science (愛称, 「PEPS」)」の最初の値は 2.6@今年6月に出るはず。

(現時点で, Thomson Reuter がカウントしたものと自分たちでカウントしたものと 0.3 ほどずれていますが, まだ, Thomson Reuter の computer に入っていないものがあります。

10 月にまでに申し出ると値を計算し直してくれることも確認しているので, 最終的に 2.6 になると思います.)

一番下に情報がありますが, 出版論文数も大事なので, これからはこれについても頑張しましょう。

川幡穂高

最近の主要雑誌の IF 変化です。

<https://www.scijournal.org/impact-factor-of-PALEOBIOLOGY.shtml>

Scientific Report

→注意: この値が上がっているのは物質+医学などの分野のためで, 地学のみで計算したら, この半分くらいの値のはず

2016/2017 Impact Factor : 4.259

2015 Impact Factor : 5.228

2014 Impact Factor : -NA-

2013 Impact Factor : 5.078

2012 Impact Factor : 2.927

PLOS ONE

2016/2017 Impact Factor : 2.806

2015 Impact Factor : 4.411

2014 Impact Factor : 3.234

2013 Impact Factor : 3.534

=====

GCA

2015 RG Journal impact 4.71

2014 RG Journal impact 4.82

2013 RG Journal impact 4.59

QSR

2016/2017 Impact Factor : 4.797

2015 Impact Factor : 4.521

2014 Impact Factor : 4.572

2013 Impact Factor : 4.571

EARTH PLANET SC LETT

2016/2017 Impact Factor : 4.409

2015 Impact Factor : 4.326

2014 Impact Factor : 4.734

2013 Impact Factor : 4.724

2012 Impact Factor : 4.349

J GEOPHYS RES

2016/2017 Impact Factor : -NA-

2015 Impact Factor : 3.318

2014 Impact Factor : 3.426

2013 Impact Factor : 3.44

GEOCHEM GEOPHY GEOSY

2016/2017 Impact Factor : 3.201

2015 Impact Factor : 2.923

2014 Impact Factor : 2.923

2013 Impact Factor : 3.054

Quaternary International

2016/2017 Impact Factor : 2.199

2015 Impact Factor : 2.067

2014 Impact Factor : 2.062

2013 Impact Factor : 2.128

QUAT GEOCHRONOL

2016/2017 Impact Factor : 2.46

2015 Impact Factor : 3.142

2014 Impact Factor : 2.687

2013 Impact Factor : 2.476

2012 Impact Factor : 4.015

MAR ECOL PROG SER

2016/2017 Impact Factor : 2.292

2015 Impact Factor : 2.361

2014 Impact Factor : 2.619

MAR GEOL

2016/2017 Impact Factor : 3.572

2015 Impact Factor : 2.503

2014 Impact Factor : 2.71

2013 Impact Factor : 2.201

MAR CHEM

2016/2017 Impact Factor : 2.457

2015 Impact Factor : 3.412

2014 Impact Factor : 2.735

MAR MICROPALEONTOL

2016/2017 Impact Factor : 1.889

2015 Impact Factor : 1.859

2014 Impact Factor : 1.837

2013 Impact Factor : 2.582

PALAEOGEOGR PALAEOCL

2016/2017 Impact Factor : 2.578

2015 Impact Factor : 2.525

2014 Impact Factor : 2.339

2013 Impact Factor : 2.752

PALEOCEANOGRAPHY

2016/2017 Impact Factor : 3.254

2015 Impact Factor : 3.433

2014 Impact Factor : 3.738

2013 Impact Factor : 3.918

PALEOBIOLOGY

2016/2017 Impact Factor : 2.886

2015 Impact Factor : 2.959

2014 Impact Factor : 2.658

2013 Impact Factor : 2.456

QUATERNARY RES

2016/2017 Impact Factor : 2.195

2015 Impact Factor : 2.198

2014 Impact Factor : 2.544

2013 Impact Factor : 2.583

=====

他に下記のサイトがあります。Scientific Reports は掲載した数も倍増させているようです。

<http://www.bioxbio.com/if/html/SCI-REP-UK.html>

Plos One は完全に食われてしまっているのか、掲載数自体も 30%減のようです。

<http://www.bioxbio.com/if/html/PLOS-ONE.html>

Geology, GCA, EPSL, QSR などは 300~400 本をコンスタントに維持していますね。

年間にハンドリングする数が少ないジャーナルは IF に関係なく査読に時間がかかったり Editor で kick されたりという印象なので(Editorial Board のキャパシティもあるのでしょうか)投稿する時に見ています。



JpGU Meeting 2018

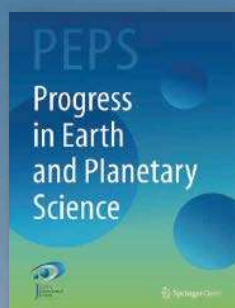
20-24 May, 2018

Makuhari Messe, Chiba, Japan

http://www.jpгу.org/meeting_e2018/

JpGU-AGU/EGU/AOGS Joint sessions

http://www.jpгу.org/meeting_e2018/program.php



JpGU Journal PEPS First Impact Factor to be Announced in June 2018

- ✓ The Japan Geoscience Union's open-access e-journal
- ✓ First published in 2014
- ✓ Accepted for indexing in the Science Citation Index Expanded (SCIE) database of Web of Science and Scopus database

Open Access E-journal Progress in Earth and Planetary Science

<http://progearthplanetsci.springeropen.com/>

2018 年連合大会準備状況報告

【Overview】

タイトル	日本地球惑星科学連合 2018 大会 Japan Geoscience Union Meeting 2018 (JpGU 2018)
会期	2018 年 5 月 20 日(日)～24 日(木) 5 日間
会場	幕張メッセ 国際会議場(全館), 国際展示場 (Hall7) 東京ベイ幕張ホール (全館 ※日曜のみ 9 スパン目まで)
大会委員長	齋藤文紀 (学協会長会議議長・日本第四紀学会会長)

【Important Dates】

2017 年	
9 月 1 日(金)～10 月 12 日(木)	セッション提案募集
12 月 1 日(金)	開催セッション公開
2018 年	
1 月 10 日(水)～2 月 19 日(月)	投稿受付
1 月 10 日(水)～5 月 8 日(火)	早期参加登録受付
3 月 13 日(火)	採択通知
3 月 14 日(水)	発表プログラム一般公開
5 月 11 日(金)	予稿 PDF 公開
5 月 20 日(日)～5 月 24 日(木)	日本地球惑星科学連合 2018 年大会

第2回大会運営委員会

日時：2018年3月19日（月） 16：00～18：45

場所：東京大学理学部1号館739号室

参加者：浜野、興野、能勢、道林、和田、小谷、縫村、中川、飯田、山田

ZOOM：中村、北

事務局：白井、篠崎、渡辺、井出

【議題】

1-1. 大会概要確認

1-2. 投稿状況確認

- 各日の口頭, ポスター数

	口頭	ポスター
5/20	470	370+80(高校生発表)=450
5/21	551	409
5/22	580	530
5/23	550	579
5/24	544	340

3. 委員役割分担確認

4. 会場図確認

5. イベント一覧確認

6. 各種詳細

- JpGU & Friendsブースを大会運営とグローバル戦略委員会で担当
- JpGU & Friendsブースの活性化の方策を検討
- 表彰式・懇親会会場の確認
- 表彰式から懇親会の参加者の入場の流れ（未払い入場を避けるため）および催し物について要検討
- INTERNATIONAL MIXER LUNCHEON例年と会場変更検討
- フォトコンテスト, 掲示場所を再検討
- PRESIDENTIAL RECEPTION招待客を検討
- 保育ルーム会場内で実施
- 受付混雑緩和およびセキュリティ強化のために担当者が今後対策の検討を行う

イベント一覧

時間	会場	イベント名
5月19日(土)		
16:00~18:00	HW 前(展示場)	高校教員用 Hyperwall
5月20日(日)		
12:30~13:40	103	ランチタイムスペシャルレクチャー
11:00~	HW 前(展示場)	中高生向け Hyperwall
19:00~22:00	ZOZOPARK	GEOFUT 18
5月21日(月)		
12:30~13:40	103	ランチタイムスペシャルレクチャー
12:30~13:30	未定	International Mixer Luncheon
17:15~17:45	ミニステージ(展示場)	おしゃべり広(BAR)場- Pop-Up Talks-
19:00~21:00	ラピス (オータニ)	Precedential Reception
5月22日(火)		
12:30~13:40	103	ランチタイムスペシャルレクチャー
	101	学協会長会議
15:30~	CH-B	社員総会
PM2 (社員総会后)	204	理事会
18:30~19:00	東京ベイ幕張ホール	表彰式
19:00~21:00	東京ベイ幕張ホール	懇親会
5月23日(水)		
12:30~13:40	103	ランチタイムスペシャルレクチャー
16:00~	HW 前(展示場)	高校生向け Hyperwall
17:15~17:45	ミニステージ(展示場)	おしゃべり広(BAR)場- Pop-Up Talks-
5月24日(木)		
12:30~13:40	103	ランチタイムスペシャルレクチャー
5月25日(金)		
終日		Field Trip

			2017セッション数				2018セッション数				2017投稿数内訳			2018投稿数内訳				
			EE	EJ	JJ	合計	EE	EJ	JJ	合計	JpGU ID	AGU ID	合計	居住地日本	居住地海外	合計		
ユニオン	U	－	3	2	1	6	4	0	4	8	28	13	41	76	8	84	－	U
		Total	3	2	1	6	4	0	4	8	28	13	41	76	8	84	Total	
パブリック	O	－			6	6	0	0	7	7	66	0	66	71		71	－	O
		Total			6	6	0	0	7	7	66	0	66	71	0	71	Total	
宇宙惑星科学	P	PS	3	3	4	10	4	3	2	9	322	50	372	252	51	303	PS	P
		EM	8	1	2	11	7	0	3	10	304	100	404	247	74	321	EM	
		AE					0	0	1	1				20	1	21	AE	
		TT															TT	
		CG	1	1		2	1	0	2	3	39	4	43	75	1	76	CG	
		Total	12	5	6	23	12	3	8	23	665	154	819	594	127	721	Total	
大気水圏科学	A	AS	11		1	12	5	1	1	7	215	144	359	150	41	191	AS	A
		EM				0				0			0		0	0	EM	
		OS	5	3	11	19	5	2	5	12	211	85	296	163	34	197	OS	
		HW	2	2	1	5	3	1	3	7	96	29	125	115	42	157	HW	
		CC		1	1	2	1	0	2	3	41	1	42	51	3	54	CC	
		PE															PE	
		GE	2			2	2	0	0	2	53	11	64	29	16	45	GE	
		TT		1	1	2	0	0	1	1	11	4	15	8	4	12	TT	
		CG	4	2	5	11	4	2	6	12	231	54	285	241	30	271	CG	
Total	24	9	20	53	20	6	18	44	858	328	1186	757	170	927	Total			
地球人間圏科学	H	GG	1			1	0	0	1	1	6	6	12	12	0	12	GG	H
		GM	1		1	2	1	0	1	2	29	2	31	30	2	32	GM	
		QR			1	1	0	0	1	1	26		26	28	2	30	QR	
		SC	1	1	1	3	0	0	1	1	41	2	43	21	1	22	SC	
		DS	6	1	2	9	3	1	3	7	109	24	133	116	18	134	DS	
		RE			1	1	0	0	1	1	9		9	11	1	12	RE	
		TT	4		4	8	2	1	3	6	125	17	142	97	7	104	TT	
		CG	3	2	6	11	5	2	4	11	132	26	158	131	41	172	CG	
		Total	16	4	16	36	11	4	15	30	477	77	554	446	72	518	Total	
固体地球科学	S	GD	1	2		3	0	2	0	2	39	11	50	37	4	41	GD	S
		SS	6	3	5	14	4	3	5	12	436	64	500	311	49	360	SS	
		EM	1		2	3	0	0	2	2	75	8	83	44	0	44	EM	
		IT	11	1		12	11	0	0	11	196	84	280	178	53	231	IT	
		GL	1	2	3	6	0	1	3	4	79	11	90	65	3	68	GL	
		RD			1	1	0	1	0	1	20		20	28	2	30	RD	
		MP	2	1	2	5	3	1	1	5	112	8	120	101	9	110	MP	
		VC	2		5	7	1	0	5	6	192	8	200	212	7	219	VC	
		GC	1		2	3	1	0	1	2	37	4	41	24	7	31	GC	
		TT	1	2	3	6	1	2	2	5	83	9	92	78	7	85	TT	
CG	8	3	3	14	5	3	8	16	295	65	360	378	36	414	CG			
Total	34	14	26	74	26	13	27	66	1564	272	1836	1456	177	1633	Total			
地球生命科学	B	AO	1			1	1	0	0	1	21	3	24	28	1	29	AO	B
		BG			1	1	0	0	2	2	7	1	8	31	1	32	BG	
		BC															BC	
		GM															GM	
		PT	1	2	1	4	1	1	1	3	88	5	93	43	3	46	PT	
		PO															PO	
		TT															TT	
		CG	2	1	1	4	1	0	2	3	45	4	49	62	4	66	CG	
Total	4	3	3	10	3	1	5	9	161	13	174	164	9	173	Total			
教育・アウトリーチ	G	－		1	3	4	0	0	3	3	61	6	67	60	8	68	－	G
		Total		1	3	4	0	0	3	3	61	6	67	60	8	68	Total	
領域外・複数領域	M	IS	8	3	14	25	5	3	13	21	487	48	535	392	38	430	IS	M
		GI	2	1	3	6	2	0	6	8	114	17	131	134	8	142	GI	
		AG	1	2		3	1	2	0	3	45	12	57	52	3	55	AG	
		SD			1	1	0	0	1	1	11		11	9	0	9	SD	
		TT	2		1	3	2	0	2	4	33	2	35	47	6	53	TT	
		ZZ	1	1	1	3	1	0	2	3	32	18	50	27	12	39	ZZ	
Total	14	7	20	41	11	5	24	40	722	97	819	661	67	728	Total			
			107	45	101	253	87	32	111	230	4602	960	5562	4285	638	4923		

			セッション数				口頭発表数				ポスター発表数				発表数合計			
			2015	2016	2017	2018	2015	2016	2017	2018	2015	2016	2017	2018	2015	2016	2017	2018
ユニオン	U	－	7	6	6	8	93	50	34	59	24	0	7	25	117	50	41	84
		Total	7	6	6	8	93	50	34	59	24	0	7	25	117	50	41	84
パブリック	O	－	5	6	6	7	21	27	25	34	43	47	41	37	64	74	66	71
		Total	5	6	6	7	21	27	25	34	43	47	41	37	64	74	66	71
宇宙惑星科学	P	PS	9	7	10	9	165	122	194	168	76	86	178	135	241	208	372	303
		EM	11	11	11	10	224	201	203	182	105	143	201	139	329	344	404	321
		AE				1				12				9				21
		TT																
		CG	3	3	2	3	61	61	22	38	27	43	21	38	88	104	43	76
		Total	23	21	23	23	450	384	419	400	208	272	400	321	658	656	819	721
大気水圏科学	A	AS	5	5	12	7	72	83	188	108	34	71	171	83	106	154	359	191
		EM				0												
		OS	1	3	19	12	13	29	163	124	2	27	133	73	15	56	296	197
		HW	4	4	5	7	49	39	62	82	30	44	63	75	79	83	125	157
		CC	2	2	2	3	28	24	27	30	9	20	15	24	37	44	42	54
		PE																
		GE	1	1	2	2	8	10	18	19	15	22	46	26	23	32	64	45
		TT			2	1			6	5			9	7			15	12
		CG	9	9	11	12	142	137	157	149	34	82	128	122	176	219	285	271
		Total	22	24	53	44	312	322	621	517	124	266	565	410	436	588	1186	927
地球人間圏科学	H	GG	2	2	1	1	25	12	6	6	8	12	6	6	33	24	12	12
		GM	2	2	2	2	14	17	13	16	15	11	18	16	29	28	31	32
		QR	1	1	1	1	9	12	12	15	9	11	14	15	18	23	26	30
		SC	3	4	3	1	22	32	28	12	11	18	15	10	33	50	43	22
		DS	5	6	9	7	51	62	75	75	43	47	58	59	94	109	133	134
		RE	1	1	1	1	21	18	5	5	8	6	4	7	29	24	9	12
		TT	7	6	8	6	65	74	79	65	40	62	63	39	105	136	142	104
		CG	3	6	11	11	25	67	78	93	14	47	80	79	39	114	158	172
		Total	24	28	36	30	232	294	296	287	148	214	258	231	380	508	554	518
固体地球科学	S	GD	3	2	3	2	32	24	24	24	7	13	26	17	39	37	50	41
		SS	11	14	14	12	197	220	229	178	148	189	271	182	345	409	500	360
		EM	2	3	3	2	33	41	44	28	26	33	39	16	59	74	83	44
		IT	7	7	12	11	119	96	149	129	40	71	131	102	159	167	280	231
		GL	4	5	6	4	33	43	45	30	30	39	45	38	63	82	90	68
		RD	1	1	1	1	8	5	11	16	5	5	9	14	13	10	20	30
		MP	6	6	5	5	50	54	65	64	54	43	55	46	104	97	120	110
		VC	7	5	7	6	107	74	88	116	96	106	112	103	203	180	200	219
		GC	2	2	3	2	22	17	24	23	8	9	17	8	30	26	41	31
		TT	5	7	6	5	54	56	44	40	27	43	48	45	81	99	92	85
		CG	13	11	14	16	210	193	181	229	119	140	179	185	329	333	360	414
		Total	61	63	74	66	865	823	904	877	560	691	932	756	1425	1514	1836	1633
地球生命科学	B	AO	1	1	1	1	16	11	11	14	10	6	13	15	26	17	24	29
		BG	1		1	2	6		0	11	3		8	21	9	0	8	32
		BC																
		GM	1				9				4				13			
		PT	6	5	4	3	73	65	52	25	27	31	41	21	100	96	93	46
		PO																
		TT																
		CG	1	2	4	3	14	22	30	40	15	12	19	26	29	34	49	66
		Total	10	8	10	9	118	98	93	90	59	49	81	83	177	147	174	173
教育・アウトリーチ	G	－	5	4	4	3	28	27	36	36	26	44	31	32	54	71	67	68
		Total	5	4	4	3	28	27	36	36	26	44	31	32	54	71	67	68
領域外・複数領域	M	IS	19	20	25	21	302	252	275	226	152	280	260	204	454	532	535	430
		GI	2	5	6	8	34	53	69	80	5	42	62	62	39	95	131	142
		AG	1	1	3	3	24	18	35	32	11	11	22	23	35	29	57	55
		SD	1	1	1	1	2	4	5	5	4	5	6	4	6	9	11	9
		TT	7	6	3	4	51	50	21	29	29	33	14	24	80	83	35	53
		ZZ	1	1	3	3	9	6	30	22	3	3	20	17	12	9	50	39
		Total	31	34	41	40	422	383	435	394	204	374	384	334	626	757	819	728
合計			188	194	253	230	2541	2408	2863	2694	1396	1957	2699	2229	3937	4365	5562	4923

論文数/セッション数 20.94 22.5 21.98 21.4

O/P比	
2015	1:0.55
2016	1:0.81
2017	1:0.94
2018	1:0.83

Presidential Reception 2018 参加者/招待者リスト（案）

個人情報_の為非公開とする

日本地球惑星科学連合 2018 年大会



Japan
Geoscience
Union
Earth, Planetary, and Space Sciences



Japan Geoscience Union Meeting 2018

日時 2018 年 5 月 20 日 (日) ~ 24 日 (木) **会場** 千葉県幕張メッセ

詳細 http://www.jpogu.org/meeting_2018/ (右上のQRコードからアクセスできます)

ユニオンセッション

U-01 JpGU-AGU Great Debate: Role of Open Data and Open Science in Geoscience

U-02 Pacific-type orogeny: From ocean to mantle

U-03 Cryoseismology - a new proxy for detecting surface environmental variations of the Earth -

U-04 国際的・分野横断的な視点からみた地球科学分野の女性研究者の雇用とワークライフバランス

U-05 地球惑星科学における学術出版の将来

U-06 連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?

U-07 Future Earth-GRPsによる地球環境変化研究の統合

U-08 地球惑星科学の進むべき道 - 8:地球惑星科学分野における将来計画とロードマップ

【日本学術会議セッション】5/21(月)開催 コンビナー: 藤井 良一, 春山 成子, 田近 英一, 川幡 穂高



パブリックセッション



0-01 これからの高校における地球惑星科学教育 —「地理総合」と「地学基礎」—

0-02 高校生によるポスター発表

0-03 地球・惑星科学トップセミナー

0-04 研究者のためのメンタルケアとコミュニケーション術

0-05 キッチン地球科学 —手を動かして頭脳を刺激する実験—

0-06 ジオパークがつなぐ地球科学と社会 —10年の成果と課題—

0-07 地球科学とアートの協働・共創

日本地球惑星科学連合大会

参加者規模	5000件を超える研究が発表され、参加者は8000名以上です
海外参加者	2017年実績で約1200名が海外からの参加であり、米国地球物理学連合との共同開催をはじめ、国際化を進めています
学生参加者	会員及び大会参加者のおよそ3分の1が学生であり、学生向け参加支援も多数用意しています
中学・高校	パブリックセッションを中心に、中高生及び中高教員を対象としたプログラムも開催しています
異分野交流	異国間及び異分野交流、意見交換のためのプログラムを、若手会員が主体となって開催しています
開催地連携	地元教育委員会を通じての市民への参加呼びかけや、現地の特色あるフィールドトリップなどを企画しています

Global Strategy Com Meeting #17

Date: 2018 March 5, Monday 15:30-17:30

Room: Japan Gescience Union Office Conference Room at the basement
2-4-16 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0032, Japan

Attendee:

Global Strategy Committee (GSC) members: Yukihiro Takahashi (Chair / Working Group for Collaborations with Asian and Pacific Academic Societies Chair), Gaku Kimura, Toshitaka Gamo, Shigeko Haruyama, Toshiyuki Hibiya, Kazuyoshi Endo, Masataka Kinoshita, Yasuhiro Murayama, Eiji Ohtani, Kiyoshi Suyehiro (International Program Coordinator), Kanako Seki, Takashi Nakagawa, Teppei Yasunari, Yoshiki Saito

Vice President: Masato Nakamura

WG members: Jun Matsumoto, Hisayuki Kubota (ZOOM)

JpGU Office: Yozo Hamano (Secretary General), Kayoko Shirai, Sachiko Ide

Regrets:

Global Strategy Committee (GSC) members: Simon Wallis (Vice Chair), Hiroe Miyake, Masaki Fujimoto, Hiroshi Nishi, Hisashi Nakamura, Fumiko Tajima, Shogo Tachibana

President: Hodaka Kawahata

Past President: Toshitaka Tsuda

Vice Presidents: Eiichi Tajika, Takashi Furumura

Working Group for Collaborations with Asian and Pacific Academic Societies:
Takuya Tsugawa

Distribution:

1: Agenda book (pp. 31)

Meeting Summary: ACTION ITEMS (jointly by GSC and Office)

- 1: Prepare for the upcoming 4 Unions meeting during EGU
- 2: Plan for the April 17 meeting at AGU Headquarters; JpGU2018-20, Centennial
- 3: Gather and update information on Korean Geoscience Union
- 4: MOUs with AGU and AOGS to be renewed.
- 5: Further explore collaboration enhancements with Asian-Pacific partners

高橋委員長により 15:30 開会した。

議題 1. 2018 年度以降の AGU/AOGS/EGU とのジョイントの推進の仕方について

- 今のやり方でいい。他にやり方があるのであれば、知らせてほしい。
- Mirror session (同じ議論を違う場で) からジョイントに進める。
- 論文発表と違う位置付けになって来ている。
- AGU 側の意図を探る必要がある。

議題 2. AOGS との MOU の update について

- 1.Expansion of membership of both organizations through joint programs
- 2.Exchange of information and possible co-organization of scientific conferences

- の部分は JpGU と AOGS の関係に合わないのではないかとの意見もあった。
 - EGU で AOGS 側とコンタクトを取る予定。そこで、合意するのが目標。
 - 現行でそのまま更新する方針。
 - EGU において、4 union 会議と同日に個別接触する。
 - JpGU の名前も知られていないので、国際メディアに、JpGU の宣伝を行いたい。
- AI: 村山委員 末広委員 / 対応する国際メディアを調査する。
- AI: 浜野事務局長 / 有料なので、その予算はグローバル戦略委員会ではなく広報普及委員会にお願いする。

議題 3. AGU Fall Meeting での「All Japan 合同アイランド」での出展について 提案について検討する。

- 2019 年の Fall Meeting で All Japan 合同アイランドで出展したい。
- 予算関連の問題があるので、構成機関に、声がけを始めないといけない。
- 予算は重要な問題点であり、無視できない。さらに他にも JpGU にとっても、他の構成機関にとってもメリットと同時にデメリットもあると思うので、構成機関との交渉を早急に始める必要があるため、構成機関との交渉を始めることについて、理事会に諮ることとする。

議題 4. AGU Fall Meeting 2019 Centennial での JpGU としてのアクション

- AGU の International Committee である Wallis 委員とのコミュニケーションが必要。
- AGU の International Committee にアイディアを求めており、返事まち。
- AGU を盛り立ててあげられそうなものがあればよい。
- なぜ、応援するのかというロジックが必要。
- AI:末広委員/委員会の意見を、末広委員が取りまとめて、Wallis 委員へお願いする（AGU の international committee なので）。意見があれば早めに末広委員にメールベースで報告する。
- 「地球科学発展に寄与した人物や組織を対象とした新しい JpGU 賞」の設立もよいのではないかとの意見もあった。

議題 5. JpGU-AGU Joint Meeting 2020 の準備

- 2019 年を終わってからでは遅いので理念的なところから話を始める必要がある。
- 国際プレゼンスをより高めて、国際的に確固としたものにすることを理念にする。
- 今年、来年と含めて 3 カ年で捉える。
- 2020 年大会はオリンピックの 2 ヶ月前にあたる。
- 整理をして、次回のグローバル戦略委員会の議題にしたい。
- AGU Fall Meeting との設計の違いは、英語 100%ではないことである。
- 2020 年の方針として言語の設定を考える必要がある→宇宙惑星では、全部 EE でお試しを考えている。セクションで議論をお願いする。成功事例を見せることが大切である。
- 異分野交流の促進、日帰り参加者がでない方策を考える必要がある。
- AGU からの注文にどのように答えるのかを考える必要がある。
- AI:末広委員 / EGU での 4 union meeting で議題にする。

議題 6. アジア戦略地域における国際連携の今後とアクション

- 金銭的な問題で、研究者を招聘できないという状況である。
- IoT を駆使した発表形態にしたい。簡単に来られない人のケアの為、その場にいらなくても参加できるようにするよう、検討を行いたい。
- 時差の調整、双方向性の担保の問題の検討が必要。
- 設備や技術をどのように調達するのかという問題もある（レンタルは 1 台一日 6.5 万円）
- 安価な媒体を使うを使う場合、質の担保をどうするのか考える必要がある。
- ポスター代理印刷をして、QR コードで発表者とコンタクトすることができるという方法もある。
- トピックを決めて、現地に赴くという方法も考えられる。
- 津田前会長よりアジア展開では、京大の余田先生にベトナム、タイ、インドネシア、シンガポール関係で御見をいただいた。
- またオーストラリアには津田先生がアデレード大学にチャンネルをお持ちなので、対応をお願いすることにする。

議題 7. 韓国地球惑星科学連合と JpGU の今後

- 川幡会長が前回韓国を訪問の際、来年 5 月発足予定との情報を得た。
- JpGU Meeting 2017 大会で刺激を受けたことがきっかけで設立することになった地質、資源、地球物理、石油など 5 つの学会連合である。
- 地質学会同士でチャンネルがあるので MOU を結んで、交流を開始してみてもという提案である。
- 関係深いセクションと関係の深くないセクションがあるので、連合としてどうするかは、考慮する必要がある。
- 先方との議論は始めることは賛成だが、政治的な問題などがある。
セクション毎の MOU という選択肢も含め、次回以降、検討していく。

議題 8. グローバル戦略委員会の任務の刷新について

- 資料参照。時間がないため次回以降に持ち越すこととする。

報告事項

2.1. AGU Fall Meeting 参加報告（末広委員）

- AGU の工夫：分野ごとに名札ケースのストラップのカラーを変えていた。
- JpGU の宣伝は十分にできたのだったと思われる。
- 12/12 Great debates に関して、内容は良いのにも関わらず、聴衆が少なかった。今後の課題として、聴衆をどう増やすかということを考える必要がある。
- JpGU ブースはよい位置で見つけやすかった。
- ブースに立ち寄った人には、日本での研究生活に興味のある若手が少なからずいた。
- PEPS/JSPS コーナーも盛況であった。
- AGU 幹部との朝食会合において、データポリシーに関わる責任者との会合、プレプリントサーバーについての意見交換をおこなった。
- NASA, AOGS, EGU と個別に意見交換を行った。特にジョイントセッションのやり方に関する意見交換も行った。

- (安成委員) JSPS のブース担当者 (サンフランシスコ事務所の職員) が来られなかったために、日本での研究生活に興味がある海外の研究者 (若手含む) への詳細な情報伝達が不十分であった。例えば、日本に興味のある海外の研究者を受け入れられそうな分野の日本人研究者を照会ができるシステムの構築が行えればより興味や日本への誘致を促せる可能性がある。
- (大谷セクションプレジデント) 来年のワシントン DC 大会に向けて、ワシントン DC オフィスの担当者に連絡をとって、JSPS ブースでの十分な情報伝達を行うように促していきたい。

2.2. AGU FM2017 における Partner Union との交流報告 (末広委員)

- 2019 年 AGU100 周年。それに関わる協力依頼を Wallis 委員を通して行っている。
AGU では、その後の 100 年を視野に入れた perspective なイベントを行う意向。
- AGU は中国の IEECAS との合同で PM2.5 に関する会議を企画中である。
- AOGS との MOU 更新に関する意見交換も行った。
- ジョイントセッションの取り扱いについて話し合いをもった。
AOGS と EGU とのジョイントセッションを企画した。
AOGS のセッションの規定により、AOGS とのジョイントセッションとして認められたものが少なかった。
- ASEAN やインドの地球科学会との連携を視野に入れた RAC が形成された。日本からも委員として参加している。AOGS をアジアの地球科学ネットワークとしての位置付けているようであるが、具体的な議論の内容は不明である。今後の活動のために、注視する必要がある。
- EGU とのジョイントについて、日程が近いために同じような発表がある可能性があるが、EGU でも重要なテーマであると認識させる必要がある。来年のセッション提案に向けて、条件の周知が重要である。
- 4 月の EGU において、4 union 会合で EGU がホストで開催予定。JpGU からの意見があれば、連絡してほしい。
- (白井事務局員) EGU 用のリーフレットの紹介。
- (高橋委員長) EGU 側の条件は？
- (末広委員) EGU のトピックに合えば、大丈夫。
- (大谷セクションプレジデント) ジョイントの意味については？
- (末広委員) EGU に限らずどの学会連合に対しても、JpGU の特色を生かす必要がある。
その方策が必要。EGU はトピックが重要、AOGS は構成が重要である。
- (高橋委員長) EGU-AGU のジョイントセッションはあるけど？
EGU は AGU 以外とジョイントセッションをやったのか？
- (末広委員) AGU と以外は聞いたことはない。
- (末広委員) コンビナーに周知することが必要であり、草の根の方針は維持しつつ、セクションにも考える。
- (高橋委員長) セクションで意識するようにする必要がある。
- (高橋委員長) RAC の活動に注視するべきである。
- (末広委員) 内容については、ウェブしか見ていない。それぞれの国の窓口であるといっているらしい。

2-3. オープンサイエンス関連動向（村山委員）

- AGU ESSI の Executive Committee 会議の報告。資料参照。
- 「JpGU」のアクロニムが浸透していない。
- Mirroring の意味は、AGU/EGU/JpGU で同じ趣旨の（オープンサイエンスに関する）セッションを各々の学会で開催すること、と委員会が言っていた。
- （高橋委員長）具体的な内容は？
- （村山委員）オープンサイエンス・オープンデータ寄りの議論とビッグデータやデータサイエンス寄りの議論の2つがある。データについては研究の評価軸について、論文数だけでなく重要なデータの生成・整備も評価する方向性で AGU でも議論されている。
- （高橋委員長）連合の中のどこで扱えばいいのか？
- （村山委員）データ・情報の選任事項は情報システム委員会で議論するが、AGU・EGU との国際連携の話はグローバル戦略委員会でも共有・議論してもらいたい。
- （高橋委員長）グローバルでコンセンサスを取りながら、実際の活動や審議・決定は情報システム。
- （大谷委員）分野によって、データの評価が違っているので、個人の評価に反映するのは、ちょっと極端なのでは？地球化学データ分析をやっている研究者に伺う。時代に逆行しているのでは？データを取る研究者の評価のやり方を考える必要があるのでは？
- （村山委員）データを取る工夫などをすれば（科学研究に資するものがあれば）、評価するべきである。ルーチンでやっているものは、そうではない。分野ごとの考え方を議論するのが大事。
- （松本委員）PEPS でデータカテゴリを作ったので、JpGU としてデータ重視の方向性を感じ取って行動をしているが、まだ手探り状態である。
- （安成委員）分野ごとのデータ評価の制度を作るのに JpGU が主導的な役割を果たすべきでは（例えば、JpGU の各セッションごとに各分野ごとの評価の指標などを検討する）？
- （村山委員）プレプリントサーバーは AGU で起動している。仕掛け人が、5/23 に招待講演をする予定である。
- （白井事務局員）AGU からプレプリントの宣伝を行いたいと連絡が来ている。
- （木村前委員長）データのクオリティーコントロールが重要である。「サイエンスロンダリング」が起きる可能性が危惧される。学会でのクオリティーコントロールがした方がいい。国や大学・研究所でデータのアーカイブシステムの構築が必須であろう。
- （村山委員）EGU も対象。

2-4. AOGS-EGU Joint Conference 報告（松本委員）

- 自然災害に関する学会であり、異分野交流ができ、結果としていい会議であった。
- 各専門分野で別れてなく学際的な学会であった。
- 午後に break-out discussion が様々なテーマで round-table discussion 形式で行われ参加者の交流に貢献していた。
- 参加者の割合はアジア 8 割、ヨーロッパ 1.5 割、残りはアメリカ、日本などであった。
- アジアの割合は、フィリピン 3 割弱、中国・シンガポール約 1 割など。シンガポールや中国の大学・研究機関に所属する欧米研究者とその研究室の若手・院生の参加が多かった。日本のプレゼンスは

Publication 関係で PEPS について、会場で依頼されて予定外の紹介ができたものの、時期的な問題もあってか参加者が少なく、やや弱い印象。

- 地滑り、大雨、地震・津波の発表が多かった。気象分野では台湾中央気象局長が発表していた。
- 実験的な開催であったが、閉会式での主催者側からの口頭での問いかけに対しては、「また、来たい」などのポジティブな回答が多かった。
- （大谷委員）ハワイの AOGS は単独か？
- （松本委員）単独である。それを維持する方針。Joint でやるのは、年 1 回の会議の他で、相手と合意が取れた場合のみ。今回はその初めての試み。
- JpGU の投稿数が今年やや少なかった理由には、AOGS Hawaii の影響も考えられる。
- フィリピンでは、地質学、火山学、気象学関係等の学会はあるものの、学会ユニオンはない。
- EGU では自然災害系セッションが急速に増えている。

2-5. JpGU2018 の国際対応準備（高橋委員長）

- JpGU2018 における学会ブースについての紹介。
- ブースをグローバル委員会で対応するので、各委員に担当をお願いしたい。
- 他国の学会とのリンクを作る拠点にしたい。
- 提案などあれば、高橋委員長まで連絡をしてもらいたい。

2-6. ジョイントセッションに関する報告（末広委員）

- 中間報告を行った。プログラム委員会の方で正式決定次第報告する。

2-7. 新入委員について（高橋委員長）

- 委員長から新入委員の紹介を行った。
- 数人程度を若手・中堅から推薦したい。推薦は事務局または高橋委員長まで連絡してほしい。

2-8 学術会議からの報告（春山委員）

- 学術会議地球惑星科学委員会におけるグローバル戦略委員会に関連する分科会の紹介。
- 国際連携分科会・小委員会の構成再編が行われている。
- 国際学会への拠出金の削減が行われている。
- AGU、EGU、AOGS、Goldschmidt への対応を JpGU として考える。
- ロードマップへの対応が必要である。

18 : 30 閉会

教育検討委員会からの報告

2018. 3. 27

1. 教育課程小委員会

1) 2月25日に小委員会開催。

- ・大学入学共通テスト（新テスト）の問題分析
- ・次期学習指導要領案の「地学基礎」へのパブリックコメントの検討
（同地学基礎には本小委員会が昨年提言した内容がかなり盛り込まれていた。）
- ・次年度行事計画について ・地学フォーラム交流会（5/19）の検討 等

2) 3月14日に次期学習指導要領案の「地学基礎」へのパブリックコメント提出

- ・探究活動の時間を確保するために、現行の地学基礎の骨子を生かしつつ、主に宇宙に関する内容の一部を削除し、地学基礎は「地球に関する科目」という性格付けが高まったことは評価できる。
- ・変動する地球では、過去から今日までの一連の時間の流れを取り扱うとあるが、それに比べると、地球の未来に関する視点が弱い。一連の時間の流れを未来にもつなげ、地球環境問題や太陽の進化（地球の未来）を時間的な流れの中で捉えるようにしたい。
- ・堆積構造の特徴など、地層の形成に関する内容が削除されたように受け取れるが、実験や観察から思考力を働かせるプロセスを重視することを考えると、妥当ではない。
- ・ビックバンで水素とヘリウムを扱うとあるが、太陽系や生物を作る重元素の成り立ちについて、恒星の進化をごく簡単に触れて説明する必要がある。現行の学習指導要領のように太陽の進化の中で扱えばよい。
- ・内容の取り扱いについて、「地球の科学・日本の自然環境」では、東北太平洋沖地震や将来発生が予想される南海トラフでの巨大地震を考慮して、「地震や火山活動」ではなく「地震・津波や火山活動」と津波を強調すべきである。
- ・地学が専門でない教員が探究活動を円滑に実施できるようにするため、地学系の学協会の協力を積極的に活用して、教員研修等の条件整備が必要である。

2. 地学オリンピック

- ・3月11-13日に茨城県つくば市にて日本地学オリンピック本選開催（中学2年～高校2年：59名。チャレンジ参加中学1年～2年：3名）。金賞10名、銀賞10名、銅賞10名。その他、茨城県知事賞（1位）、つくば市長賞（2位）、つくば科学万博記念財団理事長賞（中学1位）、産業技術総合研究所地質調査総合センター特別賞（鑑定1位）、日本地球惑星科学連合賞（女性1位）。理事会からは中村副会出席。
- ・3月13-14日につくば市にて国際地学オリンピック・タイ大会代表選手選考。金賞10名から代表4名、ゲスト生徒2名を選出。8月8-17日のタイ国カンチャナブリでの国際大会に出席。

3. 地理オリンピック

- ・3月11日に神戸市中央区で行われた代表選考（フィールドワーク）にて金賞10名から代表4名を選出。7月31日～8月6日のカナダ国ケベックでの国際大会に出席。

4. 教育国際対応小委員会

10月13-14日開催の「Earth Science Week in Japan, 静岡」の打ち合わせのために、一部委員が3月30日に静岡大学等へ出張予定

5. 教員免許更新講習

- ・今年度は8月3日「学校区での自然災害とその対策を考える」、8月4-5日「総合的防災教育」、8月27日「数値シミュレーションで学ぶ津波の基礎」の3つを開講予定。文部科学省に3月中旬に通知。4月中旬に公開。

以上